

第3章 文化遺産保存・活用の基本方針

1. 文化遺産を取り巻く現状と課題

小郡市は古くから文化の通り道・交通の要衝として栄え、福岡平野や佐賀平野などの近隣はもちろん、朝鮮半島からの渡来人によってもたらされた多くの技術や資料を市内で目にすることができます。2,000年以上に渡る豊かな歴史は市民の誇りであり、これを未来へ伝えることは、現代に暮らす私たちの責務です。

1980年代以降、中九州ニュータウン開発により市は大きく発展しましたが、それにより数多くの重要な遺跡を、発掘調査という最低限の情報を得るのみで失ったこともまた事実です。さらに、平成に入ると社会情勢は大きく変化し、近世以降続いてきた伝統的な信仰の姿は様変わりしました。

また、近年のソーシャル・ネットワーク・システム（SNS）を始めとする情報技術の発達により、人と人とのつながりの形は大きく変化しました。古くからの隣近所や地域の紐帯は緩まり、個を中心とした新しい社会像が生まれつつあります。このような状況の中、私たちの身近にある様々な文化遺産は、これからのまちづくりの大きな鍵になることが考えられます。

身近な文化遺産について学ぶことは、すなわち地域の歩んできた歴史を学ぶことになります。住んでいる人にとっては当たり前の文化遺産でも、実は非常に貴重で重要なものであることが多く、地域のまちづくりの拠り所として据えることができるものも多く存在するでしょう。つまり、まずは文化遺産について学習し、地域で価値を共有することが必要です。

小郡市埋蔵文化財調査センターは昭和61年（1986）に開館し、市内の文化財の調査と保存を中心とする行政を担ってきました。平成18年（2006）には新館が増築され、「古代体験館おごおり」の愛称のもと、積極的な普及・活用に取り組んでいます。市として現在の重点的な施策は、これからの社会を担う小学生を中心とした子どもたちへの取り組みです。埋蔵文化財調査センター見学や学校への出前授業を通じた歴史学習や古代体験、夏休みの「小郡ジュニア歴史博士」への応募、夏・冬2回実施されている「小郡ふるさと歴史検定」の受検などを通し、市内の子ども全員が小学生の間に地域の歴史や文化財に触れる機会を作っています。

その一方で、いわゆる一般市民に対する取り組みは決して十分とは言えません。考古学講座や歴史講座など各種講座の開催、史跡案内ボランティアの継続的な育成、NPO法人や地域との文化財に関する協働の取り組み等があるものの、幅広い展開ができているとは言えない状況にあります。地域の文化遺産を守り伝えるのは地域の住民自らであり、組織化を含めた取り組みが必要です。

2. 保存・活用の基本方針

前述のような現状の課題を克服し、さらなる小郡の文化の向上を図るため、この基本構想では以下のような目標を定めます。

目標：市民とともに文化遺産を学び、楽しみ、内外に誇れるふるさとをつくる

この目標を達成するため、次のような基本方針を定め、取り組みを推進します。

基本方針 1 地域の文化遺産について研究し、地域で価値を共有する。

①調査・研究

平成 24 年度から平成 28 年度にかけて実施した文化遺産悉皆調査の追加調査を実施します。特にまつりは年々変化していくことも多く、継続した調査が必要です。また、市内に多くみられるダブリュウについては、周辺の事例調査を合わせた研究が必要です。これらの調査・研究は行政と地域が協働して進めることが重要で、それにより各文化遺産の価値が地域に浸透し、その共有も可能となります。

②各種文化財の計画的な指定・登録

市内文化遺産悉皆調査では約 3,850 件の文化遺産をカード化し、データベースで内容や写真を管理しています。これらは即ち指定・登録文化財の候補リストと言うこともでき、今後の文化財指定の方針に関する基本計画の策定が求められます。なお、指定・登録後はその管理が重要な課題となるため、管理団体となる地元や所有者との密接なつながりは欠かせません。

基本方針 2 地域毎に文化遺産を守り伝える体制を構築する。

①文化遺産と周辺環境を含めた一体的な保全を図る

文化遺産が地域に残された背景には、様々な要因があります。樹木などは地域の象徴として、または神木として伐採されずに保存されてきました。また、路傍の石祠にある石像や木像は、講を始めとする地域の紐帯の証として残されてきたと言っても過言ではないでしょう。つまり、これら文化遺産は単体として偶然残されてきた訳ではなく、人々の思いとともに継承されてきたのです。文化遺産が伴う周辺の自然環境はもちろん、このような社会環境とともに保全する体制作りが必要です。

②人材育成

文化遺産を守り伝える担い手には、地域住民・行政・学校・活動団体が挙げられます。

まず、地域住民は、自ら文化遺産について学習することが重要です。行政はその機会創出や情報提供のかたちで協力を図ります。次に、行政は対象となる文化遺産の調査研究はもちろん、普及活動を実施し、最終的には助成金・補助金など適切な制度を利用して、住民による保存活動を支援します。学校は、歴史一般のみではなく、地域の歴史学習を進め、実際に多くの文化遺産に触れ、次世代の人材育成を担うことが必要です。活動団体は、行政と連携し、様々な情報発信の機会を創出することが求められます。

③適切な保存・管理

地域に残された文化遺産の中には、文化財的価値が非常に高いものも存在します。例えば、小さな路傍の御堂の中に、中世に遡る木像が安置されていることもあります。他市町村では、近年これらの文化財の盗難が発生しており、何らかの対策が必要です。まずは学習を通して地域でその価値を共有し、適切な保存・管理環境を整える必要があります。

④技術・情報の伝承

指定・未指定に関わらず、まつりや信仰には伝承すべき技術や情報が存在します。伝承にはまず地域内でその価値が十分共有されていることが重要で、その上で行政による協力を得ることになります。特に技術は個人に頼っている場合が多く、その個人が不在になった場合、まつり自体の存続が危ぶまれる事態を招くことになります。地域と行政が一体となった組織づくりが必要です。

基本方針3 地域の文化遺産の価値を発信し、まちづくりに活かす。

①整備・活用

市内において、文化遺産に関する地域活動が盛んな松崎と小郡には、それぞれ旅籠油屋と平田家住宅が存在します。旅籠油屋は平成31年（2019）3月に復原工事が完了し、管理するNPO法人小郡市の歴史を守る会により現在は展示会など様々な取り組みが行われています。平田家住宅は令和元年（2019）に建物と土地の公有化が完了し、今後活用が本格化します。管理する認定NPO法人文化財保存工学研究室は、地域サポーター「はぜの会」とともに活用や管理に取り組み、非常に活発な活動が見られます。これらは地域の拠点として、まちづくりの中心となるものです。

②情報発信

情報発信には大きく二つの方向性があります。まずはSNSを利用した発信で、市のホームページ（HP）の他に埋蔵文化財調査センターでも独自のHPを持ち、様々なイベント紹介等を行っています。またNPO法人小郡市の歴史を守る会もHPを持ち、イベントのみならず、様々な伝統行事等の紹介も行っています。小郡の民俗が垣間見れる貴重なHPです。

一方、昔ながらの方法でこれまでに調査・研究した内容を、情報発信しているのが「史跡案内ボランティア」のメンバーです。年5回程の史跡巡りハイキングを実施し、各回40～60名の一般参加者とともに、実際に文化遺産に触れながら、地域の特徴や重要性を広く発信しています。

③官学連携・官民連携

平成30年度及び令和元年度に小郡市は福岡女学院大学と「小郡市観光まちづくり調査研究事業の実施に関する協定」を締結しました。これは、小郡市と福岡女学院大学の人的・知的資源等の交流と活用を図りつつ、福岡女学院大学が小郡市の観光まちづくりに関する提案を行い、市の観光まちづくりの推進に寄与することを目的としています。

観光まちづくりとは、文字通り「観光」と「まちづくり」が合わさった言葉で、「地域が主体となって、自然、文化、歴史、産業など、地域のあらゆる資源を生かすことによって、文化を振興し、活力あふれるまちを実現するための活動」と定義されます。これは、地域主体で外からの視点を活用しつつ、誇りあるまちづくりを行う取り組みで、今後は官学のみならず官民の連携も期待されます。

3. 小郡市の関連文化財群 ～小郡ならではのストーリー～

1) 小郡市内の文化遺産の概要

平成 24 年度から平成 28 年度までの文化遺産再発見事業では、市内で約 3800 件の文化遺産をカード化しました。この調査は文字通り悉皆調査で、市内の全ての道を歩くことを目標に実施しました。なお、その後も追加調査や地域のまつりの調査を実施しており、今後さらに件数が増加することが期待されます。

悉皆調査の成果からは、小郡市の全体としての特徴、各小地域の特徴などさまざまな様相が見えてきます。ここでは小郡市の全体像及び調査時の地域区分基準とした各中学校区の概要を示します。なお、各文化遺産は以下のように分類しました。

表 11 文化遺産の種別分類

種別	内容	種別	内容
遺跡	遺跡も地域の貴重な財産	跡	寺社の跡地など特殊な事例
遺物	調査中に採集された土器・瓦等	地域	団地等一定の地域が対象
建築	寺社、民家、御堂など建物全般	道	近世・近代から残された道
まつり	伝統行事から地域の餅つきまで	風景	自然ではなく景観として捉える
自然	地域に残された自然を全体として捉える	墓	歴史上の人物の墓等
樹木	自然の中でも特定の樹木（群）が対象	木像	木造の仏像などが対象
信仰	信仰のかたちや歴史が対象	歴史	伝承などを含めた歴史自体が対象
水路等	近世に遡るような区画水路など	寺社	市内の寺社が対象
石造物	御堂の石造物や石碑等全てが対象	その他	珍しいもの、一風変わったものなど

①小郡市の全体像

今回の調査では、市内全域で 3,850 件の文化遺産の登録を行いました。寺社境内には多くの文化遺産が存在するものの、その割合は約 40%で、その他が 60%を占めたことは、悉皆調査の大きな成果と言えます。内訳は、石造物が約 60%を占め、寺社以外で 1,000 件を数えることは、民間信仰が盛んな小郡のようすをよく表しています。

表 12 小郡市内の文化遺産分類表（市内全域）

	遺跡	遺物	建築物	まつり	自然	樹木	信仰	水路等	石造物	跡	地域	道	風景	墓	木像	歴史	寺社	その他	計
寺社	1	1	109	43	2	56	1	2	1153	0	0	1	5	6	44	2	62	73	1561 (40.6)
寺社以外	151	13	362	30	21	44	7	58	1070	50	16	46	54	39	66	93	0	169	2289 (59.5)
合計	152 (3.9)	14 (0.4)	471 (12.2)	73 (1.9)	23 (0.6)	100 (2.6)	8 (0.2)	60 (1.6)	2223 (57.7)	50 (1.3)	16 (0.4)	47 (1.2)	59 (1.5)	45 (1.2)	110 (2.9)	95 (2.5)	62 (1.6)	242 (6.3)	3850 (100)

※単位は件、()内は%

②小郡中校区

小郡中校区では、近世の小郡町を中心に多くの文化遺産が確認されました。建築物や石造物のみでなく、近世から続く道や水路が多く確認できたことは大きな成果です。隣接する佐賀県鳥栖市や基山町とのつながりを表すものも多く、三社一緒に勧請された日吉神社や、七夕伝承にまつわる媛社（七夕）神社と姫古曾神社の存在はその象徴とも言えます。

注目される文化遺産には、旧街道沿いに現在も残る道標が挙げられます。大正時代に建てられたものも多く、時代が変わっても人々の旅のスタイルが変わらなかったことが分かります。また、「大原古戦場碑」や「福童原古戦場」のように、大保原合戦に関する文化遺産が多いことも地域の特徴と言えます。

表 13 小郡市内の文化遺産分類表（小郡中校区）

	遺跡	遺物	建築物	まつり	自然	樹木	信仰	水路等	石造物	跡	地域	道	風景	墓	木像	歴史	神社	その他	計
日吉神社	0	0	1	5	0	7	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	1	1	53
祇園神社	0	0	1	1	0	6	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	1	1	43
大中臣神社	0	0	3	4	0	4	0	0	29	0	0	0	0	0	0	0	1	0	41
媛社（七夕）神社	0	0	2	2	0	1	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	1	2	24
今朝丸神社	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	6
福童神社	0	0	0	2	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8
小計	0	0	7	14	0	18	0	0	126	0	0	0	0	0	0	0	6	4	175
実相寺	0	0	3	0	0	1	0	0	14	0	0	0	0	0	1	0	1	3	23
応真寺	0	0	3	0	0	1	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	18
禪福寺	0	0	5	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	1	0	0	1	0	35
本照寺	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11
小計	0	0	12	0	0	2	0	0	64	0	0	0	0	1	1	0	4	3	87
寺社計	0	0	19	14	0	20	0	0	190	0	0	0	0	1	1	0	10	7	262
寺社以外	21	8	69	2	0	9	1	17	173	7	6	25	5	13	12	5	0	26	398
合計	21	8	88	16	0	29	1	17	363	7	6	25	5	13	13	5	10	33	660

単位：件



媛社（七夕）神社の夏祭り



祇園神社の夏祭り

③宝城中校区

宝城中校区は古くからの田園地帯で、五穀豊穡に関するまつりが数多く残されている貴重な地域です。獅子舞は昔ながらに各地区で行われ、ダブリュウ・川まつりも同様です。また、味坂校区には旧筑前街道が、御原校区には薩摩街道が南北に走り、街道沿いにはたくさんの関連文化遺産が存在しています。在郷町古飯は、古建築こそ少ないものの、家々の屋号が伝わり、道沿いには当時の繁栄を物語る恵比須像が見られます。また、郷土の偉人である古屋佐久左衛門・高松凌雲兄弟もこの古飯の出身です。

表 14 小郡市内の文化遺産分類表（宝城中校区）

	遺跡	遺物	建築物	まつり	自然	樹木	信仰	水路等	石造物	跡	地域	道	風景	墓	木像	歴史	寺社	その他	計
味坂 老松神社	0	0	2	1	1	1	0	0	37	0	0	0	1	0	0	0	1	3	47
赤川 天満神社	0	0	1	0	0	1	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	1	4	31
若宮八幡宮	0	0	1	1	0	1	0	0	47	0	0	0	0	0	3	0	1	2	56
二森 天満神社	0	0	1	1	0	1	0	0	49	0	0	0	0	0	0	0	1	0	53
諏訪神社	0	0	3	1	0	2	0	0	38	0	0	0	0	0	5	0	1	3	53
下岩田 天満神社	0	0	1	1	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	1	6	28
平方 天満神社	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
二夕 天満神社	0	0	1	1	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	1	0	1	0	22
稲吉 老松神社	0	0	2	0	0	1	0	0	17	0	0	0	0	0	1	0	1	0	22
光行 天満神社	0	0	1	0	0	1	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	1	0	24
小計	0	0	13	7	1	8	0	0	270	0	0	0	1	0	10	0	10	18	338
普濟寺	0	0	3	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	1	1	23
善現寺	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
光桂寺	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
光養寺	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
小計	0	0	5	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	0	4	2	32
寺社計	0	0	18	7	1	8	0	0	291	0	0	0	1	0	10	0	14	20	370
寺社以外	4	2	142	13	4	11	0	6	344	10	8	1	23	3	32	16	0	70	689
合計	4	2	160	20	5	19	0	6	635	10	8	1	24	3	42	16	14	90	1059

単位：件



鎌太郎のダブリュウ



光行土居

④立石中校区

立石中校区は地域の中心を薩摩街道が走り、宿場町松崎があります。松崎には復原が完了した旅籠油屋を始め、南北の構口、本陣（御茶屋）跡など多くの文化遺産が存在し、松崎以外にも薩摩街道干潟野越堤や筑前・筑後国境石など、市を代表する文化遺産が数多く残されています。他にも花立山古墳群を始め、戦争遺跡や中世の城館跡なども多く、文化遺産の宝庫と言えます。

表 15 小郡市内の文化遺産分類表（立石中校区）

	遺跡	遺物	建築物	まつり	自然	樹木	信仰	水路等	石造物	跡	地域	道	風景	墓	木像	歴史	神社	その他	計
松崎 天満稻荷神社	0	0	1	2	0	2	0	0	47	0	0	0	0	0	1	0	1	1	55
愛宕神社	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
月姫大神宮	0	0	4	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	1	1	13
上岩田 老松神社	1	1	1	1	0	1	0	0	36	0	0	0	0	0	2	0	2	1	46
佐野古 大神宮	0	0	3	2	1	1	0	0	30	0	0	0	1	0	1	0	1	0	40
下鶴 天満神社	0	0	1	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	2	0	1	0	12
天忍穂耳神社	0	0	2	0	0	2	0	0	24	0	0	0	0	0	0	0	2	1	31
吹上 大通宮	0	0	2	1	0	1	0	0	24	0	0	0	0	0	1	0	1	2	32
阿蘇神社	0	0	6	1	0	1	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	2	6	62
乙隈 天満神社	0	0	1	0	0	3	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	1	1	39
日方神社	0	0	2	2	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	1	0	1	0	24
日子神社	0	0	1	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	1	0	16
小計	1	1	24	9	1	11	0	0	288	0	0	0	1	0	8	0	16	13	373
真浄寺	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0	5
霊鷲寺	0	0	7	0	0	4	0	0	16	0	0	0	3	5	3	1	1	2	42
頓了寺	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
憶想寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
小計	0	0	8	0	0	4	0	0	21	0	0	0	3	5	3	1	4	2	51
寺社計	1	1	32	9	1	15	0	0	309	0	0	0	4	5	11	1	20	15	424
寺社以外	31	1	80	4	3	15	2	11	315	26	1	6	18	21	11	29	0	42	616
合計	32	2	112	13	4	30	2	11	624	26	1	6	22	26	22	30	20	57	1040

単位：件



花立山



上岩田注連ねり

⑤三国中校区

三国中校区は、中九州ニュータウン計画により、大規模団地が造成されました。各団地造成前には大規模な発掘調査が行われ、日本の歴史を塗り替えるような貴重な発見もありました。遺跡から見つかった資料は埋蔵文化財調査センターに保管・展示され、市の豊かな歴史を今に伝えています。その一方、近世以前から続く村々には貴重なまつりや風習が残されています。横隈で毎年秋に行われる早馬祭は非常に珍しく、市指定文化財になっています。横隈は江戸時代前期までの宿場町で、宿場内の道幅の広さや南・北枡形、宿場を囲む竹藪などが、往時の雰囲気を今に伝えています。

表 16 小郡市内の文化遺産分類表（三国中校区）

	遺跡	遺物	建築物	まつり	自然	樹木	信仰	水路等	石造物	跡	地域	道	風景	墓	木像	歴史	寺社	その他	計
八龍神社	0	0	6	3	0	1	0	0	31	0	0	0	0	0	4	0	1	2	48
力武 竜門神社	0	0	2	0	0	1	0	0	31	0	0	0	0	0	2	0	1	1	38
古賀 竜門神社	0	0	3	0	0	1	0	0	23	0	0	0	0	0	1	0	1	1	30
荒岩稲荷神社	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	1	7
須佐能袁神社	0	0	2	0	0	1	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	20
隼鷹神社	0	0	2	1	0	2	0	1	28	0	0	0	0	0	0	0	1	0	35
日吉神社	0	0	4	1	0	1	0	0	46	0	0	0	0	0	0	0	1	3	56
山王宮	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
小計	0	0	21	5	0	7	1	1	180	0	0	0	0	0	7	0	7	8	238
明願寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
光明寺	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7
如意輪寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1	0	3	0	10
寺社計	0	0	21	5	0	7	1	1	186	0	0	0	0	0	8	0	10	8	248
寺社以外	69	0	31	6	5	3	1	16	131	3	1	7	1	0	8	22	0	8	311
合計	69	0	52	11	5	10	2	17	317	3	1	7	1	0	16	22	10	16	559

単位：件



横隈早馬祭



三国境石

⑥大原中校区

大原中校区は、その名の通り中世の「大保原（大原）合戦」の舞台となったところです。これまでの発掘調査で、この地は中世小郡の中心の一つであったことが分かっており、善風寺の伝承を始め、合戦を感じさせる地名も存在します。また、御勢大霊石神社は「延喜式」神名帳に登場する式内社で、境内には多数の文化遺産が存在します。

まつりについては、大板井で行われている「名月さん」が注目されます。現在は芋ではなく、お菓子を子どもたちに提供しますが、地域の強いつながりが分かる貴重な伝統です。なお、近年発見されたものに大保池のオニバスがあります。他に若山堤でも確認されており、県内でも有数の生息地となっています。

表 17 小郡市内の文化遺産分類表（大原中校区）

	遺跡	遺物	建築物	まつり	自然	樹木	信仰	水路等	石造物	跡	地域	道	風景	墓	木像	歴史	寺社	その他	計
大原神社	0	0	2	1	0	1	0	0	6	0	0	0	0	0	2	0	1	0	13
黒岩稲荷神社	0	0	6	1	0	1	0	0	51	0	0	1	0	0	1	0	1	12	74
西島 電門神社	0	0	4	1	0	1	0	0	22	0	0	0	0	0	5	0	1	2	36
玉垂御子神社	0	0	2	3	0	1	0	0	35	0	0	0	0	0	0	0	1	2	44
御勢大霊石神社	0	0	4	2	0	2	0	1	54	0	0	0	0	0	3	1	1	5	73
小計	0	0	18	8	0	6	0	1	168	0	0	1	0	0	11	1	6	21	240
福聚庵	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	3	0	1	2	16
往明寺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
小計	0	0	1	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	3	0	2	2	17
寺社計	0	0	19	8	0	6	0	1	177	0	0	1	0	0	14	1	8	23	257
寺社以外	26	2	40	5	9	6	3	8	107	4	0	7	7	3	3	21	0	23	275
合計	26	2	59	13	9	12	3	9	284	4	0	8	7	3	17	22	8	46	532

単位：件



大板井の名月さん



西島如来石像

2) 関連文化財群

本構想においては、先述の悉皆調査成果をもとに、小郡市ならではのストーリーとして9つのテーマを設定しました。このテーマの設定に当たっては、以下の内容を考慮しました。

- 小郡の特徴がよく表れていること。
- 有形・無形、指定・未指定を問わず、多種多様な文化財を対象とすること。
- 今後の取り組みの中で価値が広く認識され、市民と行政で共有できるものであること。

つまり、設定したテーマは小郡の歴史や文化の特性を表し、後世に継承すべきものとして、市民と行政が一体となって取り組む対象と言えます。時代性を表すもの、時代を超えたつながりを表すものなど、多様なストーリーをご紹介します。

表 18 各テーマと概要・関連文化財

テーマ	概要	主な関連文化財
津古古墳群と小郡の古墳文化	交通の要衝である小郡には、九州でも貴重な古墳時代前期の首長墓系列が見られます。鶏形土製品など様々な出土遺物でも有名なこの古墳群出現の背景には、長期間にわたって続くヤマト王権との強いつながりがありました。	津古1号墳 横隈山古墳 下鶴古墳 花立山穴観音古墳【県史跡】 花立山古墳群 鶏形土製品（津古生掛古墳） 船を描いた土器（津古3号墳）
郡役所の教科書 小郡官衙遺跡群	7～8世紀の上岩田遺跡と小郡官衙遺跡は、続く下高橋官衙遺跡（大刀洗町）も含めて、移動する郡衙として有名です。初期評衙である上岩田遺跡と仏堂の存在、さらに整備された郡衙である小郡官衙遺跡の存在は、この地域が当時の地方行政を進める上で非常に重視されていた証です。	小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡【国史跡】 上岩田遺跡【国史跡】 井上廃寺 極先瓦【県有形 考古】 媛社（七夕）神社
九州南北朝最大の合戦 大保原合戦	1359年、小郡を中心に九州南北朝期最大の合戦「大保原合戦」がありました。市内には関連する史跡や伝承が数多く残されています。平成21年には650周年記念事業を、令和元年には660周年記念事業を実施しました。市民にとって身近な郷土の歴史です。	福童の將軍藤【県天然記念物】 福童原古戦場 高卒都婆 伝善風寺 西島如来石像【市有形 彫刻】 上岩田五重石塔【市有形 考古】 山隈城 大原古戦場碑

テーマ	概要	主な関連文化財
水とくらし	市の中央を宝満川が南流する小郡市では、古くから水とともに人々の暮らしがありました。江戸時代には水の確保のために、多くの人々が活躍します。水に関するまつりの多さも小郡市の特徴を表しています。	薩摩街道干潟野越堤【市史跡】 池内孫右衛門翁之碑 稲吉堰 溜池・用水路 市内各地のダブリュウ・川まつり
近世のクロスロード 小郡	江戸時代の小郡は、薩摩街道、彦山道、旧筑前街道が走る重要なクロスロード地点でした。松崎宿の旅籠油屋、小郡町の平田家住宅など、現在もたくさんの貴重な文化財が残されています。	旧松崎旅籠油屋【市有形 建造物】 平田氏庭園【国登録記念物】 平田家住宅【市有形 建造物】 南・北構口【市史跡】 薩摩街道筑後国境石【市有形 建造物】 御井・御原郡境石
燧と小郡	江戸時代、燧は照明やびんつけ油として非常に重宝されました。18世紀中頃に小郡町で開発された「伊吉燧」は優良品種で、その出荷などにより財を得て、小郡町は大きく発展しました。	内山伊吉之碑 伊吉燧の古木 平田家住宅【市有形 建造物】 端間港
小郡の食文化 鴨料理	小郡の食文化を代表するのが鴨です。江戸時代の三沢（旧三国村）は藩専有の猟場で、昭和50年代まで盛んに鴨猟が行われました。鴨料理は小郡名物として有名で、市内外の人々が楽しみました。	さとう別荘 松岡家住宅【国登録有形】 水車屋 旧三沢ピクニックセンター 各堤や深田
民間信仰 さまざまな祈りのかたち	市内には寺社の他に、数多くの民間信仰が見られます。観音菩薩、地藏菩薩、虚空蔵菩薩に始まり、恵比須信仰や猿田彦神信仰もあります。昭和時代までは写し霊場も盛んでした。	名馬池月の塚 馬頭観音像 佐野古大神宮観音堂 地藏菩薩像 上西馬渡薬師堂 薬師如来像 井上公民館 猿田彦大神 日吉神社 虚空蔵菩薩像 松崎上・中・下町 恵比須像
大刀洗飛行場と戦時のくらし	東洋一の大刀洗飛行場に隣接する小郡には、軍の施設が多く造られました。中でも旧陸軍実弾射撃訓練場は、一級の戦争遺跡です。空襲の跡も多く残り、悲惨な戦争の記憶を語り継ぐ必要があります。	旧陸軍実弾射撃訓練場 軍用道路 立石国民学校奉安殿 立石平和の碑 縣境石 横隈区有文書

テーマ① 津古古墳群と小郡の古墳文化

1) ストーリー

小郡市は二日市地峡帯の南出口に位置し、交通の要衝であるとともに、地理的に戦略上非常に重要な地域です。この特徴により、原始から古代へと社会が徐々に発展を続ける中で、特に古墳時代前期を中心に、注目すべき多くの古墳が登場します。

古墳時代前期に造られた津古古墳群は、4基の前方後円墳(津古2号墳、津古生掛古墳、津古1号墳、三国の鼻1号墳)と1基の方墳(津古3号墳)、そして多くの方形周溝墓や円形周溝墓(津古生掛遺跡、津古永前遺跡)からなります。

津古生掛古墳は全長33mで、主体部の木棺からは舶載の方格規矩鳥文鏡などが出土し、周溝からは有名な鶏形土製品3体が出土しました。津古1号墳は、みくにの団地開発の際に「こふん公園」として保存された貴重な歴史遺産です。津古3号墳は、舟が描かれた土器が出土した古墳として有名です。三国の鼻1号墳は全長66mの市内最大の古墳で、墳丘に120個体以上の二重口縁壺が樹立されていました。後の埴輪につながる貴重な事例です。

みくにの団地の中央公園再整備の際に発見されたのが、津古永前遺跡です。削平によって墳丘は残っていなかったものの、丘陵頂部で3基の主体部が見つかりました。このうち3号主体部は甕棺で、内部には大量の赤色顔料が散布されていました。古墳時代初頭の墳墓と考えられます。津古生掛遺跡では、津古生掛古墳に隣接して多くの周溝墓が検出されました。なお、津古生掛遺跡で見つかった87号竪穴住居跡からは大量の畿内系土器が出土し、古墳群がヤマト王権と強いつながりを持っていたことが考えられます。

津古古墳群に続いて登場するのが、花簗古墳群です。花簗1号墳は、昭和36年(1961)農作業中に偶然発見され、竪穴式石室の中から市内唯一の古墳時代の甲冑である三角板皮綴短甲や鉄刀など多くの鉄製品が見つかりました。花簗2号墳は直径32m程の円墳と考えられ、鉄製品の素材となる鉄錠16本が出土しました。鉄錠は朝鮮半島から持ち込まれたもので、渡来人との関係が推測されます。

古墳時代中期になると、横隈山古墳が出現します。この古墳は三国が丘団地に保存され、令和元年度に法面の整備が実施されました。古墳は全長約32mを測る前方後円墳で、家型・盾型・朝顔型・円筒など多くの埴輪が見つっています。これらの埴輪は、約400m西側に位置する三沢蓬ヶ浦遺跡の埴輪窯で焼かれた可能性が高く、古墳と埴輪窯の供給関係が分かる九州最古級の例となっています。なお、この埴輪窯からは片流れの家形埴輪が出土しました。片流れの家形埴輪はこれまで全国で数件の出土例しかなく、ヤマト王権とのつながりも推測されます。

古墳時代後期になると、市内で約400基の群集墳が造られます。そのうち約300基は花立山の南麓を中心に築かれた花立山古墳群で、古墳の他に多くの横穴墓も確認されています。古墳群の中には首長墳の花立山穴観音古墳(県指定史跡)も存在します。この古墳は全長33mを測り、墳丘の周囲には大型の周溝が巡ります。巨石を使用した横穴式石室には線刻があり、市内唯一の装飾古墳です。なお、この古墳に先行する前方後円墳として埴輪を持つ西下野1号墳が存在していましたが、現在は削平により一部しか残っていません。

美鈴が丘、希みが丘にも70基以上の古墳が造られていました。これらは三沢古墳群と呼ばれ、鉄製品の出土が非常に多いことが特徴です。また、古墳に隣接して馬を埋葬した土壙墓が多く造ら

れ、地域で馬の飼育や管理が行われていた可能性が指摘されています。古墳時代終末には、唐三彩や絞胎の陶枕片や金銅製飾鋳が出土する古墳もあり、大宰府を中心とした官人層との関連が想定されることから注目されています。なお、この古墳群と同時期には須恵器を焼成した茱又窯跡群が営まれ、周辺の古墳や集落に供給されていました。

2) 構成文化財

No.	構成要素	種別	概要
1	津古1号墳	遺跡	全長42mの前方後円墳。団地内に公園として残る。
2	津古永前遺跡	遺跡	みくにの団地総合公園内。古墳時代初頭の墳墓。
3	津古2・3号墳	遺跡	2号墳は群中最古の前方後円墳。3号墳は方墳。いずれも消滅。
4	津古生掛古墳	遺跡	鶏形土製品や方格規矩鳥文鏡が出土。消滅(看板あり)。
5	三国の鼻1号墳	遺跡	市内最大の前方後円墳。消滅(看板あり)。
6	井の浦1号墳	遺跡	確認調査後、公園内に保存。
7	横隈山古墳	遺跡	中期の前方後円墳。埴輪が多数出土。
8	津古古墳	遺跡	未調査で現存。大きさ20m以上の円墳(前方後円墳?)。
9	三沢蓬ヶ浦遺跡	遺跡	埴輪窯を発見。焼いた埴輪は横隈山古墳に供給。
10	三沢古墳群	遺跡	三沢古墳群のうち、美鈴が丘部分。馬の土壙墓を検出。
11	茱又古墳群・窯跡群	遺跡	三沢古墳群のうち、希みが丘部分。唐三彩など貴重な遺物が出土。窯跡群は、6世紀後半の7基の登窯で構成。
12	花簞1号墳	遺跡	竪穴式石室から三角板革綴短甲や鉄刀が出土。
13	花簞2号墳	遺跡	鉄素材となる鉄鋌16本が出土。
14	下鶴古墳	遺跡	30m程度の円墳。石棺から四獣鏡が出土。
15	上岩田老松神社古墳群	遺跡	神社境内に古墳が2基残る。石窟屋の伝承あり。
16	下岩田古野遺跡	遺跡	古墳時代中期の石棺系石室を持つ。墳丘は不明。
17	西下野1号墳	遺跡	前方後円墳か。数多くの円筒埴輪、朝顔形埴輪が出土。
18	花立山穴観音古墳	遺跡	県指定史跡。巨大な横穴式石室に線刻あり。
19	花立山古墳群	遺跡	南麓に300基以上が密集する県内有数規模の群集墳。



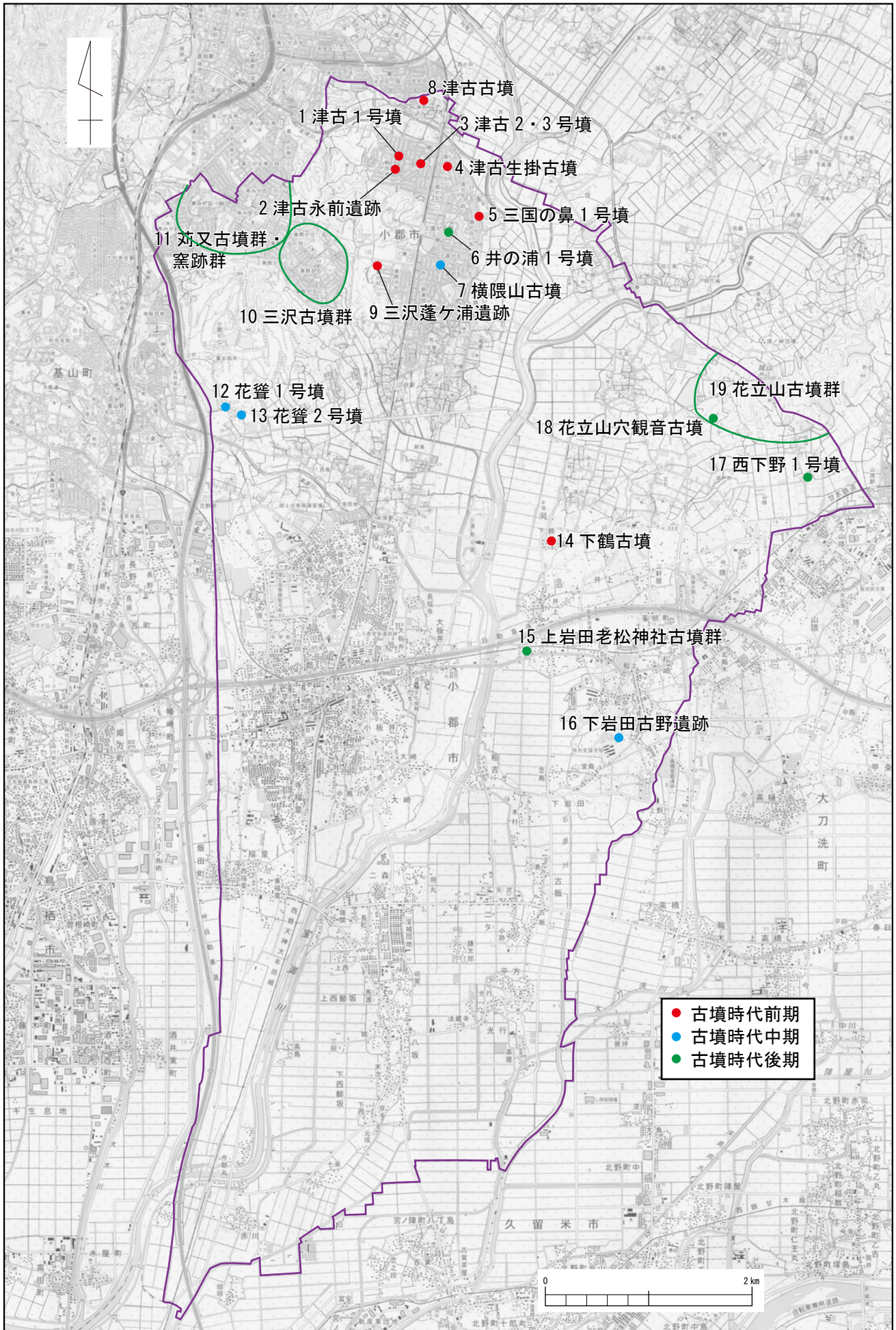
津古生掛古墳出土
鶏形土製品



三国の鼻1号墳全景



横隈山古墳出土
家形埴輪



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

1) ストーリー

7世紀末頃、筑紫国は筑前国と筑後国に分けられます。小郡市を含む旧御原郡は筑後国に含まれますが、位置するのは筑後川の北側です。通常大河があれば、それが国の境界に利用されることがほとんどです。つまり、この国分けは地域の重要性を表しています。

小郡官衙遺跡は、昭和42年(1967)に発見され、昭和46年(1971)に国指定史跡となりました。当時は地方官衙の様相が全国的にまだ分かっていない時代で、多くの大型建物配置が明確に把握できるこの遺跡の発見は、その後の地方官衙研究の大きな進展を導きました。

小郡官衙遺跡は、大きく3つの時期の遺構が見られますが、その中心になるのが、7世紀末から8世紀前半の第Ⅱ期です。この時期、溝で囲まれた約240m四方の区画の中に、規則正しく並んだ大型掘立柱建物群が出現します。建物群は大きく3か所に分かれ、それぞれ政庁、正倉、館に位置付けられています。8世紀中頃の第Ⅲ期になると、建物の軸が南北に揃えられます。南北180m、東西120mの区画が造られ、その周囲には大型の建物が見られます。この遺跡の北東部には長者ヶ泉と呼ばれる湧水があります。第Ⅱ・Ⅲ期の遺構配置から考えると、当時から水源として利用されていたと考えられます。

なお、この遺跡から約100m東にある大板井遺跡では、大規模な整地層と倉庫群が確認されました。これらは、官衙正倉の別院の可能性が指摘されています。また、他の遺構として注目されるのが、古代官道の存在です。この時期、筑紫平野北部には、東西にまっすぐ延びる幅6mの道路が存在しました。市内では向築地遺跡や松崎六本松遺跡などで確認されています。

平成7年(1995)、小郡官衙遺跡に先行する時期の官衙が発見されました。それが上岩田遺跡です。この遺跡の最古段階Ⅰ期は7世紀後半に位置付けられ、土を版築で強固に積み上げた基壇の上に寺院の仏堂が建てられていました。周囲には大型の建物群が並び、これらは初期評衙と考えられます。評衙の創設には、有力者の影響が大きく働いていたことが考えられます。これに関して文献資料はありませんが、寺院仏堂に山田寺系の瓦が使用されていることを重視し、669～673年に筑紫大宰となった蘇我赤兄との関係を指摘する考えがあります。なお、発掘調査では、基壇に数多くの地割れが見つかりました。その原因と考えられるのが、『日本書紀』天武7年条(678)に記される「筑紫地震」です。この大地震は、基壇上にあった仏堂を倒壊させ、寺院の機能は井上廃寺に、官衙の機能は小郡官衙遺跡へと移ることになりました。

井上廃寺は、上岩田遺跡から約300m西に位置します。古くから瓦が多く拾われることで有名で、そのうち極先瓦6点は県指定有形文化財となっています。寺の詳細は不明ですが、南北180m、東西120mの区画を持ち、その内側に建物群が存在するものと考えられます。区画の中心付近にある井上公民館入口には巨石を利用した猿田彦大神がありますが、これは寺の建物の礎石だと言われています。

古代の信仰というカテゴリで話をする時、ここに登場するのが媛社神社です。現在は七夕神社として市民に親しまれているこの神社は、『肥前国風土記』に「媛社の社」として登場します。神社は別名磐船神社とも言われることから、物部氏との関係も推測されています。

なおこの時期、市内では多くの集落も見つっていますが、注目される遺跡として干潟遺跡が挙げられます。この遺跡では竪穴住居跡100軒以上、掘立柱建物50棟以上が確認されており、10世

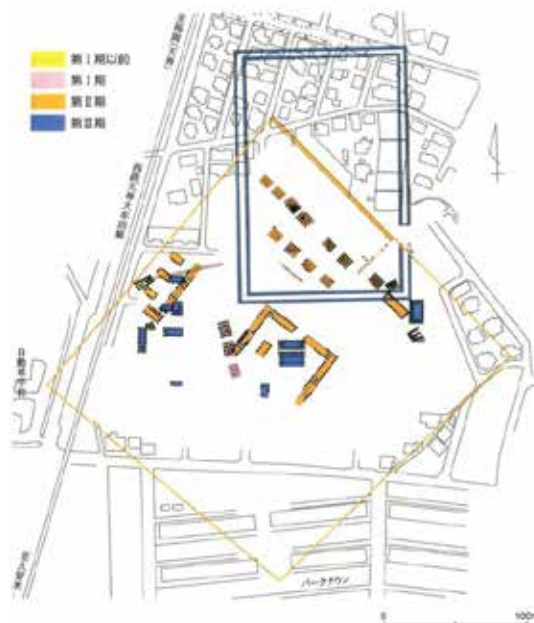
紀に書かれた『倭名類聚抄』に登場する御原郡4郷の一つ「日方」がこの集落に該当すると考えられています。

2) 構成文化財

No.	構成要素	種別	概要
1	小郡官衙遺跡	遺跡	国指定史跡。御原郡衙。郡衙の教科書と言える建物配置。
2	上岩田遺跡	遺跡	国指定史跡。初期評衙。未整備ながら、基壇の高まりあり。
3	下高橋官衙遺跡【大刀洗町】	遺跡	国指定史跡。御原郡衙。遺跡公園として整備済。
4	井上廃寺	遺跡	上岩田遺跡から移る。極先瓦は県指定。南門確認。
5	松崎六本松遺跡	遺跡	幅6mの東西官道確認。
6	松崎六本松遺跡3	遺跡	東西官道から下高橋官衙遺跡に向かう南北官道確認。
7	向築地遺跡	遺跡	幅6mの東西官道確認。
8	小郡前伏遺跡	遺跡	西海道から小郡官衙へと向かうと考えられる官道確認。
9	大板井遺跡	遺跡	整地層と大型建物群を確認、官衙正倉の別院か。
10	干潟遺跡	遺跡	市内最大の古代集落。竪穴式住居100軒以上。
11	媛社（七夕）神社	寺社	『肥前風土記』に「媛社の社」として登場。



上岩田遺跡出土瓦類



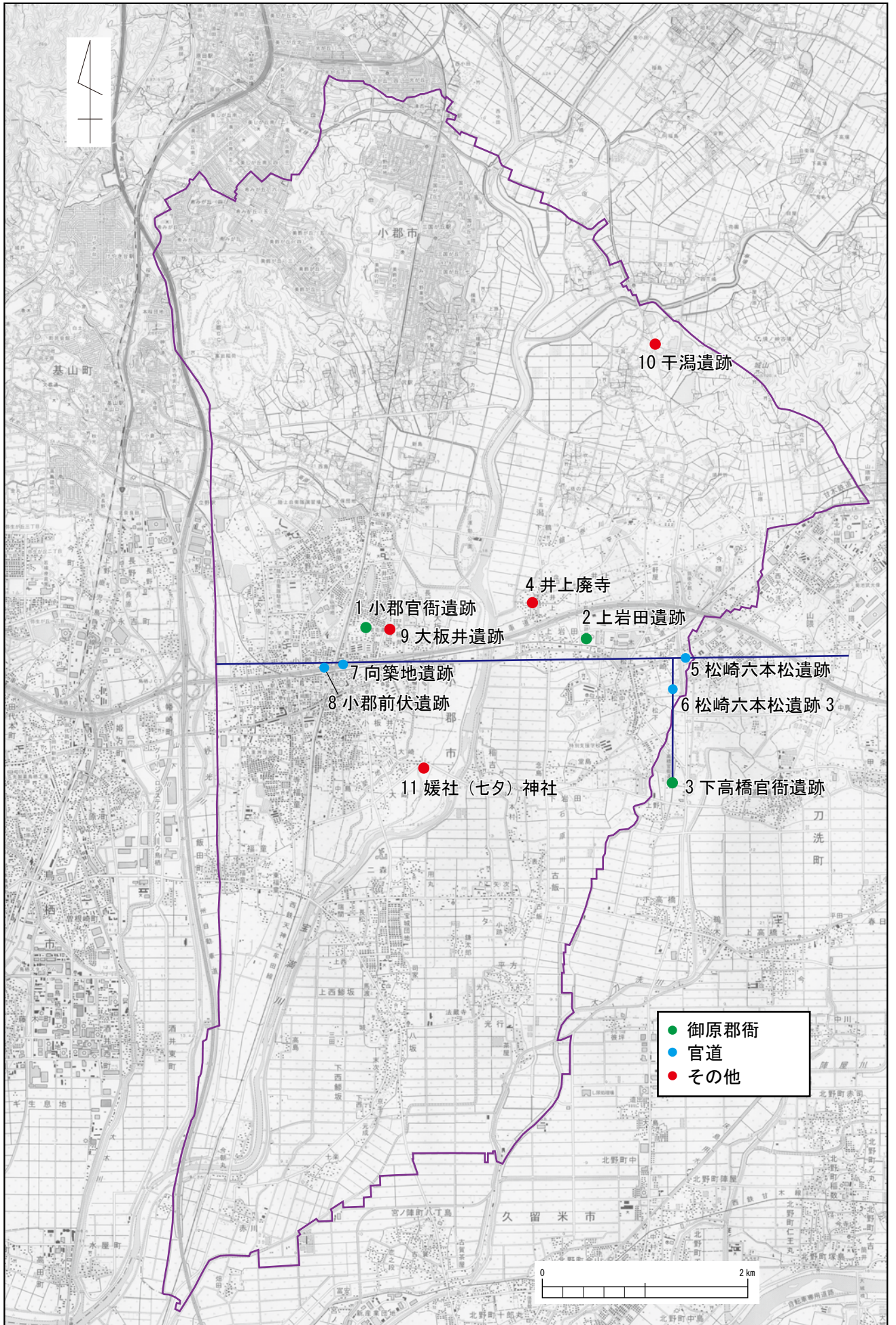
小郡官衙遺跡変遷図



松崎六本松遺跡の官道跡



干潟遺跡の住居群



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

テーマ③ 九州南北朝最大の合戦 大保原合戦

1) ストーリー

南北朝時代の正平14年・延文4年（1359年）、小郡を舞台に九州南北朝の大勢を決する大保原（大原）合戦が繰り広げられました。南朝・北朝両軍合わせて10万人とも言われる兵による戦いは、わずか半日で大勢が決したと伝わります。

市内には、この合戦に関する史跡や伝承が多く残されています。まず地名として、「味坂」があります。この大保原合戦を一般に広く紹介した当時の軍紀物語『太平記』には、「味坂庄」という名で登場します。また、当時の一級資料である「木屋行実軍忠状」（『木屋家文書』）には、「岩田」「福同原」（現在の福童原）という名前が見られます。なお、市中部には「高見下」や「前伏」という小字名があり、当時の軍勢の動きが見えるようです。

史跡としては、福童の將軍藤（県指定天然記念物）や福童原古戦場、高卒都婆などを挙げる事ができます。福童の將軍藤は、合戦で傷を負った南朝方懐良親王が、大中臣神社の加護で全快したことへ感謝して奉納したと伝わります。現在は胸高2m、被覆面積約500㎡にも及び、毎年春に地元により藤まつりが開催されています。

福童原古戦場は、大保原合戦後に一旦大宰府を制圧した南朝方が、その11年後に高良山に退いた後の戦いに関する史跡です。1374年に北朝方今川了俊が福童原に陣を敷いて高良山を攻略、征西府は菊池へと退却し、再び興隆を迎えることはありませんでした。

高卒都婆は、合戦の後に戦死者を供養した場所と伝わっています。現在も保存会が清掃を欠かさず、毎年8月6日には慰霊祭を開催しています。

考古学の面からこの大保原合戦にメスを入れたのが、善風寺伝承地の発掘調査です。善風寺とは、合戦後に南北両軍から僧侶を出して、戦死者を弔った寺と伝わります。三沢寺小路遺跡では、大型の溝で囲まれた東西71～74m、南北25m以上の長方形区画が確認され、多くの瓦が出土しました。また、この区画のすぐ東側では、規則正しく並んだ小型の長方形の穴が見つかり、死者を埋葬した土壌墓ではないかと考えられています。なお、周辺の発掘調査成果を合わせて考えると、大保原合戦のあった14世紀後半に集落変遷の大きな画期があったことが分かり、この合戦が地域に与えた影響の大きさを知ることができます。なお、この遺跡周辺には、「小善風」「大善風」「寺小路」といった寺に関連する小字が多く存在します。このことも善風寺の伝承の信憑性を増しています。

当時の社会情勢や人々のくらしは、残された石造物からも読み取ることができます。西島如来石像（市指定有形文化財）は元亨2年（1322）に造られたもので、浮き彫りされた阿弥陀如来と梵字から阿弥陀三尊を表すと考えられています。また、上岩田五重石塔（市指定有形文化財）は元徳2年（1330）に造られたもので、岩田庄に住む人々の健康、安泰、幸福を祈ったものです。いずれも合戦の約30年前のものですが、当時の社会の情勢や人々の信仰がどのようなものかを教えてくれます。

なお、この時期には、市内に多くの城館が築かれていました。中でも花立山にある山隈城は、大保原合戦の際に少弐氏の陣が置かれたとの伝承があり、現在も本丸・二の丸・三の丸の区画や、犬走り・塹堀などを確認できます。この城は戦国時代にも多くの武将に利用されたため、様々な時代の遺構がありますが、地形的な要素から考えると、この山が大保原合戦でも利用された可能性は高いと言えるでしょう。その他の中世城館としては、乙隈城・吹上城・大板井城・西鯨坂城などがあ

ります。中でも西鯨坂城には多くの伝承が残され、現在も城跡に広く散布する中世の土器が歴史を物語っています。

大保原合戦は、明治以降になると日本の歴史は天皇を中心に展開されたという歴史観である「皇国史観」に利用されるようになりました。懐良親王を守って戦った菊池武光は、忠臣として崇められるようになったのです。明治44年(1911)には合戦から550周年を記念して、現在の東町公園に大原古戦場碑が建てられ、その後多くの皇族が参拝することになります。ただし、戦後になると歴史の検証に重点が置かれるようになり、平成21年(2009)には市民が結成した大原合戦650周年実行委員会が記念碑を建立しました。

2) 構成文化財

No.	構成要素	種別	概要
1	善風寺跡	歴史	戦死者を祀る寺の伝承。発掘調査により各種遺構を確認。
2	高卒都婆	石造物	戦死者を祀る碑。毎年8月6日に慰霊祭開催。
3	善風塚跡	歴史	合戦で亡くなった武将の塚と伝わる。大原小学校内。
4	大原古戦場碑	石造物	合戦を象徴する記念碑。600周年・650周年でも製作。
5	福童原古戦場	歴史	北朝方が南朝方を追い詰める1374年の合戦に関連。
6	福童の将軍藤	樹木	県指定天然記念物。懐良親王が奉納との伝承。
7	善現寺	寺社	「正平廿季」(1365)の銘のある基礎石あり。
8	小善風の碑	石造物	市民により建てられた碑。
9	大保の御堂	建築物	元々、善風塚に祀られていた地藏菩薩像あり。
10	大原神社	寺社	明治初めに創建。祭神は懐良親王。
11	字「前伏」	歴史	合戦に関連する字名。斥候が伏せて監視した場所か。
12	字「高見下」	歴史	合戦に関連する字名。先兵が高台の上から見下ろしたと伝わる。
13	「味坂庄」	歴史	中世の荘園。『太平記』に「味坂庄」と記載。
14	乙隈城	遺跡	堀の跡あり。大門(オオモン)など地名が残る。
15	山隈城	遺跡	花立山頂。曲輪等が残る。
16	吹上城	遺跡	土塁が残る。大屋敷(ウーヤシキ)・大木戸(ウーキンド)。
17	大板井城	遺跡	水路で区画。屈曲する道「七曲り」。
18	西鯨坂城	遺跡	戦国時代まで使用される。大量の出土遺物あり。
19	西島如来石像	石造物	1322年造立。阿弥陀如来と梵字で阿弥陀三尊を表す。市指定。
20	上岩田五重石塔	石造物	1330年造立。逆修供養。塔身に不動明王の梵字。市指定。
21	御勢大霊石神社	神社	式内社。中世大保発展の中心。
22	大保横枕遺跡	遺跡	中世の大型区画あり。
23	稲吉元矢次遺跡	遺跡	宝満川の川港。大量の貿易陶磁が出土。
24	花立千人塚	石造物	合戦の戦死者を弔うものと伝えられる石碑。



三沢寺小路遺跡出土の軒丸瓦



大保西小路遺跡出土の青銅製懸仏

地域	遺跡名	性格	1200年	1300年	1400年
三沢	①三沢古賀遺跡	集落 墓地		↔	
大保	②西島遺跡 3	集落	→		
	③三沢宮ノ前遺跡 2~4	集落	↔		
	④三沢寺小路遺跡 1~6	集落 墓地			←
	⑤大保横枕遺跡 2	集落	→		
	⑥三沢権道遺跡 1・2	集落		←	
	⑦大保龍頭遺跡 1~6	集落	←	→	
	⑧大保西小路遺跡	集落	↔		←
	大板井	⑨大板井遺跡 6	集落 墓地	↔	
小郡 福童	⑩小郡正尻遺跡	集落	→	↔	
	⑪小郡野口遺跡	集落		↔	
	⑫福童山の上遺跡	集落	↔		
稲吉	⑬稲吉元次遺跡	集落		→	
津古	⑭津古空前遺跡	墓地	↔		
	⑮津古東台遺跡	墓地	↔		
	⑯津古東宮原遺跡	墓地	↔		
	⑰津古土取遺跡	周溝墓		↔	
三沢	⑱三沢北中尾遺跡 5	周溝墓		↔	
	⑲北牟田遺跡	周溝墓			↔
大保	⑳三沢軌道町遺跡	周溝墓		↔	

★は推定「善風寺」

小郡市内の遺跡の変遷



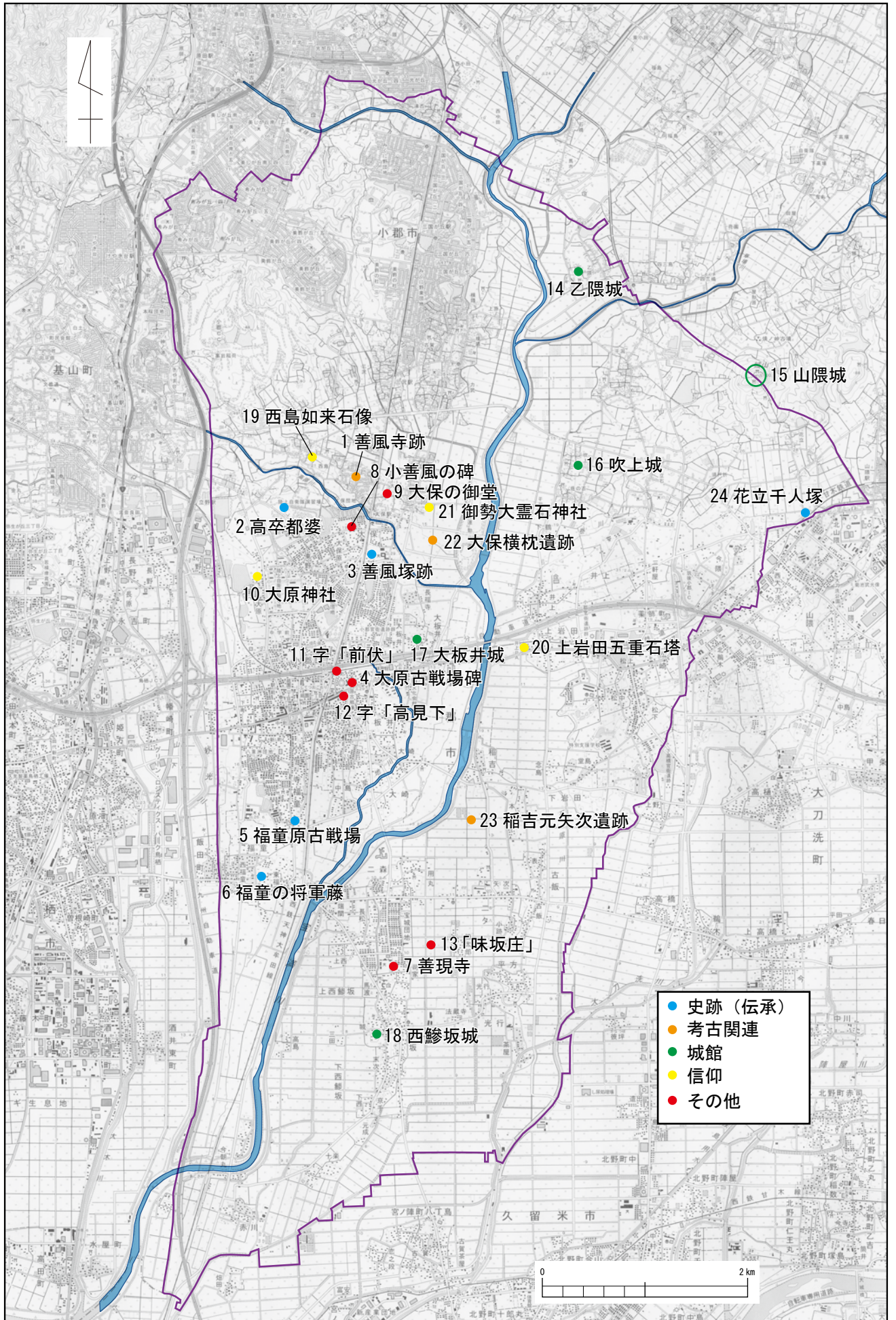
大原古戦場碑



史蹟 高卒都婆



『大原合戦図屏風』



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

テーマ④ 水とくらし

1) ストーリー

市内のほとんどが低平な小郡は、昔からさまざまな方法で水の確保に取り組んできました。市内に多く見られる溜池は、その好例です。人々のくらしに恵みをもたらす水ですが、時に牙を剥くこともあります。宝満川は「暴れ川」として有名で、大きな洪水被害が出たことも1度や2度ではありません。

今から2,000年以上前の弥生時代前期、市内で先駆けて力武内畑遺跡で水稲耕作が始まりました。発掘調査によって、低い台地上にある集落に隣接する低地で、小川をせき止めて水田に水を送る井堰や水田の区画が発見されたのです。唐津平野や福岡平野で稲作が本格化してからあまり間を置かない時期の施設で、水稲耕作の急速な広がりを表す事例と言えます。

秋光川の支流沿いにあった小郡川原田遺跡からは、弥生時代から古墳時代にかけての大量の木製品が出土しました。内容は、農具の鋤、横槌、横杵、堅杵、漁労具の網杵、建築材の鼠返し、礎板などで、総計約300点を数えます。この遺跡は氾濫原に位置することから、出土した木製品は秋光川の洪水によって流されたものである可能性が考えられます。

稲吉元矢次遺跡は平安時代から鎌倉時代にかけての集落で、大量の貿易陶磁が出土しました。この遺跡は宝満川のすぐ東に位置することから、当時の川港ではないかと考えられています。なお、遺跡内では宝満川からまっすぐ東に延びた3条の水路が見つかりました。これらは川から集落に直接入ることができる運河の役割を果たしていたのかもしれません。

江戸時代になると農業が発展し、水の確保はまさに重要な課題となりました。正保4年(1647)年、久留米藩の普請奉行丹羽頼母重次により稲吉堰が築かれ、そこから下流の約700ha以上に水が供給できるようになりました。この堰は石堰で、その石は花立山古墳群の古墳石室に使用されていたものを運び出したと伝えられます。

一方、宝満川西岸の低台地上に位置する小郡町や寺福童村の人々は、隣接する佐賀県の秋光川から水路を引いて水を確保しました。他藩領から水を引く方法は水争いを引き起こすことも多く、中でも17世紀末にあった「豆田井手水論」は有名です。19世紀に小郡町の庄屋になった池内孫右衛門は、さらに確実に水を確保するために西島村・大保村と交渉し、高原川の余水を引くことに成功します。なお、この水路は現在も使用されています。

市内にある溜池の多くは江戸時代以降に造られました。中でも大きなものとして、現在の東野小学校の場所にあった東野溜池を挙げることができます。大正初期、小郡村長池内虎太郎は、水不足解消のために各小溜池の拡張を考えていましたが、莫大な予算を必要とすることから、溜池を新設することが得策と考え、基山村小倉側と水利権等の交渉を行いました。その後、大正4年(1915)に溜池新設工事を起工します。この溜池は平地に造るため、堤防を築き、池の底や堤防の内側に粘土を貼る工法が採用されました。大正5年(1916)5月に完成し、小郡村の田150町歩に水を引くことができるようになりました。なお、昭和50年代後半に埋められて現在に至ります。

17世紀後半に整備された薩摩街道ですが、市南部では堤防の上を通ります。この堤防は光行土居と呼ばれ、中世の古文書にも登場します。平方から古飯にかけては元々二重に土居が存在したらしく、洪水に備えるため、中世の人々が大規模な土木工事を実施したことが分かります。

宝満川は、これまで氾濫によって何度も流路を変えてきたことが、「鬼河原」や「古川」といっ

た字名の広がりから分かります。洪水の影響を直接受ける井上や平方には、いざという時に道路を封鎖するための水門の跡が現在も残されています。

江戸時代には、洪水の被害を抑えるため、「野越し」という方法が採用されました。これは河川の堤防の一部をわざと低く造り、そこから限定的に水を溢れさせて、下流の被害を最小限に食い止める方法です。この方法を街道の管理にも利用したのが、薩摩街道干潟野越堤（市指定史跡）です。ここでは、低地に土塁状に築いた街道の西側法面と法面下位に石を敷き、草場川の洪水によって街道が壊れることを防いでいました。なお、この野越堤の上流には同じく洪水対策として霞堤や横堤が築かれており、これらが一体となって街道を守るシステムを構築していたようです。現在も変わらず機能するこれらの構造物は、江戸時代から引き継いだ貴重な土木遺産と言えます。

川の水は、水田や畑に引く他にも様々な利用方法があります。その一つが杵と臼を使用した製粉です。水車巡路道**絆覧図**（市指定有形文化財）は小郡町の田中家に伝わる貴重な資料で、明治時代前期の北部九州の水車の位置が描かれています。これは田中家が行っていた製粉の際に使用する篩絹の行商に使用するためのもので、小郡市内にも3か所の水車小屋があったようです。津古の宝珠川沿いには2か所の水車小屋の印があり、現在でも「水車屋」「下の水車屋」として地元伝わっています。

人々の生活を支える水に対して、古くから現在まで感謝を表すまつりが行われています。川まつり、水神まつり、ダブリュウなど様々な呼び名と種類がありますが、現在でも市内で20か所以上確認できます。ダブリュウは川の恵みに対する感謝と、かつて牛馬を川で洗っていたことへのお詫びを兼ねて行われる行事です。水際に笹竹を立てて注連縄を張り、米や塩、魚など様々なお供え物を捧げます。春と秋の彼岸の時期にまつりが行われます。

2) 構成文化財

No.	構成要素	種別	概要
1	八龍神社	寺社	嘉元2年(1304)創建。祭神は彦火火出見神、豊玉姫神。
2	水車屋	歴史	「水車巡路道 絆覧図 」に記載。津古に2基。
3	隼鷹神社八竜宮	石造物	隼鷹神社の北側畑の中に存在。
4	乙隈のダブリュウ	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
5	野越堤を中心とする水利施設	歴史	霞堤・横堤・野越堤で薩摩街道を洪水から守る。
6	花立山古墳群	歴史	稲吉堰や野越堤、溜池に古墳石室の石材を利用。
7	竈門神社水天宮	石造物	久留米水天宮から勧請。元は宝満川沿いにあり。
8	三沢の川祭り	まつり	100年以上続く水神への感謝の祭。
9	力武内畑遺跡	遺跡	小郡最初の水稲耕作を行った集落。井堰を検出。
10	大保池	自然	オニバス及び水生生物群が市指定天然記念物に。
11	東野溜池	歴史	大正初めに造られた大規模溜池。現在は東野小学校。
12	豆田井手	歴史	江戸時代に秋光川に設置された取水施設。
13	池内孫右衛門翁之碑	石造物	高原川の余水を小郡町に引く事業。
14	野口堤	水路	小郡町へ水を送る溜池。
15	小郡川原田遺跡	遺跡	秋光川の氾濫原に位置。大量の木製品出土。

No.	構成要素	種別	概要
16	若山堤	水路	市内で3か所発見されているオニバスが生息。
17	長者が池	水路	古代から湧き水を利用。
18	東野溜池築造碑と記念碑	石造物	東野溜池築造の記録。
19	田中三次郎商店	歴史	水車巡路道詳覧図（市指定有形文化財）を所有。
20	福童神社	寺社	1557年の木製銘板が残る。
21	山添池・柿添池	水路	豆田井手から水路が続く。寺福童村の重要な溜池。
22	東福童の水神祭り	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
23	端間港	歴史	川港として発展。市内への中継基地。
24	馬入りのスロープ	その他	農作業後の馬を水路で洗うためのスロープ。
25	長浦堤	水路	市内で3か所発見されているオニバスが生息。
26	井上の水門	歴史	宝満川の洪水時に板で水門を閉める
27	八竜天神社	石造物	畑の中に石碑が残る。大庄屋高松家との関連。
28	稲吉元矢次遺跡	遺跡	中世の市内最大の遺跡。大量の貿易陶磁が出土。
29	上岩田の野越し	水路等	明治時代に造られた宝満川の野越し。現在は無い。
30	稲吉堰	石造物	1647年築造。小郡の農業事情を一変させた。
31	馬風流池址	まつり	ダブリュウを行っていた池の跡。石碑が残る。
32	下岩田天満神社神殿床下の木舟	その他	洪水の際に利用する木舟が残されている。
33	鶴番小屋跡	歴史	江戸時代久留米藩の鶴番小屋が置かれた。
34	諏訪神社の洪水水位線	その他	28水（昭和28年の大水害）の際の洪水水位線。
35	古飯のダブリュウ	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
36	二タ鎌太郎のダブリュウ	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
37	八坂司家の川まつり	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
38	馬渡公民館の洪水水位線	その他	28水（昭和28年の大水害）の際の洪水水位線。
39	平方の水門	歴史	宝満川・大刀洗川の洪水の際に板で水門を閉める。
40	平方陸橋	その他	洪水対策のため、本来必要のない場所にある陸橋。
41	光行土居	歴史	薩摩街道も通る人工的な土塁。中世の土木工事か。
42	下西末次の川まつり	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
43	京手公民館前のダブリュウ	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
44	下西京手南のダブリュウ	まつり	水の恵みに対する感謝の祭り。
45	赤川天満神社水神社	石造物	江戸時代から祀られてきた石祠。現在は本堂に合祀。
46	赤川南坪石塔「水神」	石造物	集落内の水路沿いに残された石碑。
47	高原川の野越し	水路等	市内に現存する野越し。横堤らしき堤防もある。



稲吉元矢次遺跡全景



光行土居



ニタ鎌太郎のダブリュウ



「池内孫右衛門翁之碑」



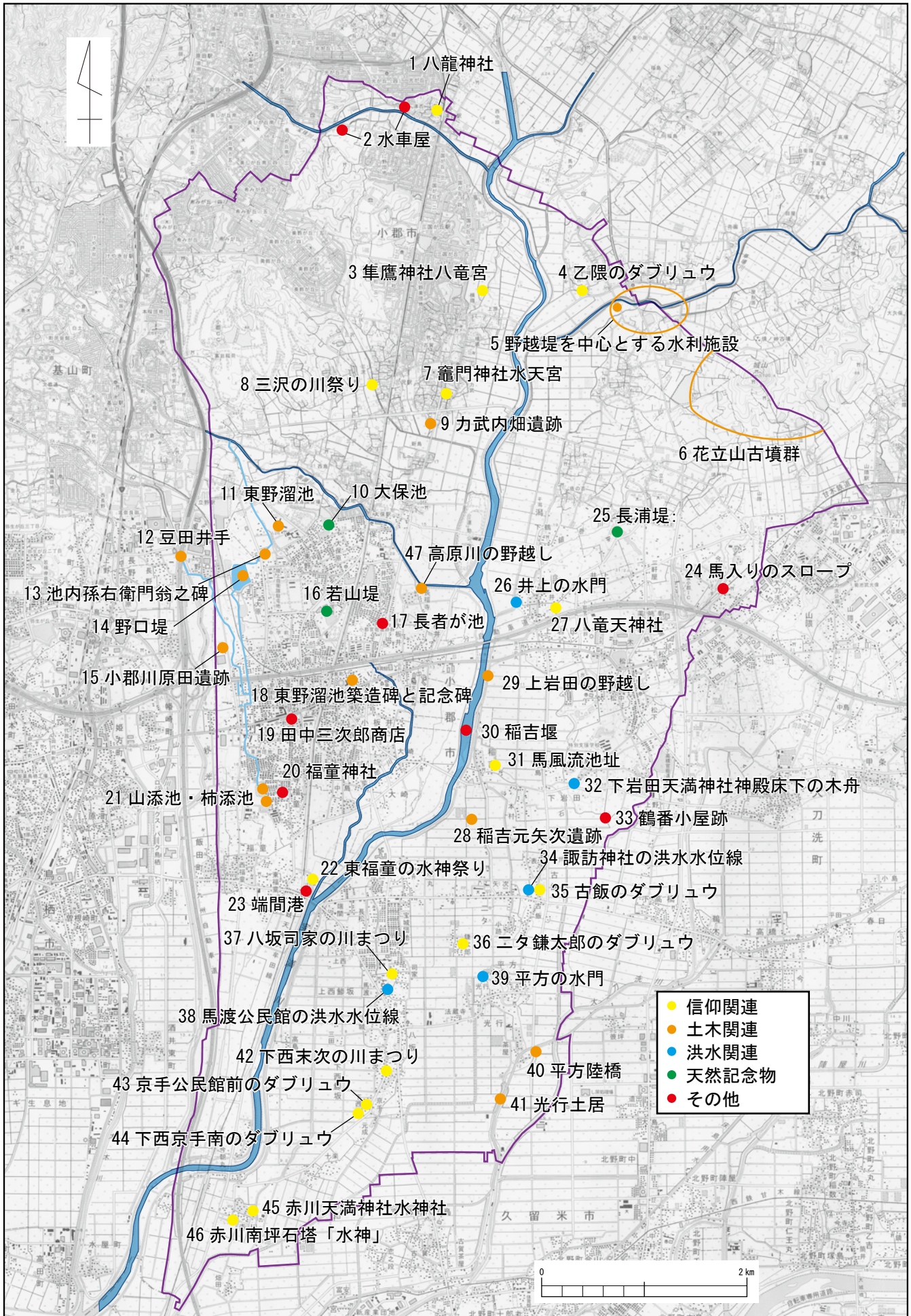
馬風流池址



力武籠門神社 水天宮



三沢の川祭り



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

テーマ⑤ 近世のクロスロード 小郡

1) ストーリー

原始・古代から現在まで、小郡は交通の要衝として発展してきました。中でも江戸時代を中心とする街道や宿場町の存在は、現在でも往時の雰囲気を私たちに色濃く伝えています。

中世小郡の交通の特徴は、活発な宝満川の利用と考えられます。川港と推定される稲吉元矢次遺跡はもちろん、津古、三沢、大保、大板井など、宝満川沿いの地域の集落活動が顕著になります。他方、陸上交通も発展し、上述の集落から大崎、二森、八坂、赤川を通るルートが幹線道路となったと考えられます。このルートは旧筑前街道または横隈街道と呼ばれ、江戸時代前期に薩摩街道が成立するまで、参勤交代道としても利用されました。

旧筑前街道沿いに位置する横隈は、宿場町として発展しました。正保3年(1646)の古文書には、筑後国の10か所の町のうちの一つとして「横隈町」の記載が見えます。横隈町は南北約770mの範囲で、宿場の中心を南北に走る街道は、約5.3mという堂々とした道幅です。現在でも「柳屋」を代表とする歴史的建築があり、宿場の南北には道をあえてクランク状に曲げる枡形がそのまま残されるなど、往時の雰囲気を感じさせます。北枡形にある追分石は大正から昭和にかけて建てられたもので、この時代も地域の主要道として利用されていたことが分かります。

寛文8年(1668)、有馬豊範は御原郡19か村1万石を分地され、松崎藩が成立します。寛文12～13年には鶴崎の地に居城を築き、名を松崎と改めました。延宝6年(1678)、北は山家宿、南は府中宿に至る街道筋が天下道と定められ、城下町である松崎は宿場町としても発展します。松崎藩は貞享元年(1684)に改易されて一旦天領となり、元禄10年(1697)に久留米藩の所領へと戻されますが、松崎宿の発展は続き、筑後三宿(松崎・羽犬塚・瀬高)の一つに数えられました。宿場内には、19世紀中頃に建てられた旧松崎旅籠油屋(市指定有形文化財)や南・北構口(市指定史跡)、枡形など多くの文化財が残されています。

松崎宿から薩摩街道を南に約2km進むと、古飯に到着します。江戸時代の古飯は在郷町として発展し、18世紀初めの古文書に「古飯町」として登場します。現在は古い町家はほとんど残されていませんが、屋号が伝えられる家が多く、恵比須像や民家の持ち送り、北枡形の存在が往時を偲ばせます。

薩摩街道沿いにはこの他にも多くの文化財が存在します。福岡藩と久留米藩の国境に建てられた筑前・筑後国境石(筑後分は市指定有形文化財)、街道を草場川の洪水から守る干潟野越堤(市指定史跡)、干潟や下岩田、八丁島の一里塚跡、御井・御原郡境石、旅人の休憩に利用された光行茶屋など、挙げればきりがありません。

これら南北の街道に対し、江戸時代に東西の幹線道路だったのが彦山道です。先述の正保3年(1646)の古文書には、「横隈町」に加えて「小郡町」と「井上町」が書かれています。しかし、元禄や宝永年間の資料には「井上町」は登場しないことから、薩摩街道の開通に伴って、人の流れが松崎宿経由へと大きく変わったことが分かります。一方、17世紀中頃に現在地に町立てされた小郡町は、江戸時代中期以降、櫛蠟生産により地域の中心として大きく発展しました。小郡町は上町、中町、下町に区分され、町の拡大に応じて西道町、新町が形成されました。戸数は18世紀初頭には68軒でしたが、18世紀中頃に117軒、18世紀後半には200軒余りと増加を続けました。なお、当時は東西の入口に構口があり、町は二重の堀(水路)で囲まれていました。この堀は、現在も多

くの場所で見ることができます。

2) 構成文化財

No.	構成要素	種別	概要
1	筑前・筑後国境石	石造物	久留米藩・福岡藩境に建つ。筑後国境石は市指定有形文化財。
2	薩摩街道干潟野越堤	道	市指定史跡。野越しの構造で薩摩街道を守る類を見ない遺構。
3	へへり坂	道	低地から干潟の丘陵へ上る急坂。伝承多数。
4	一里塚跡	歴史	干潟の一里塚跡。記念碑と案内板あり。
5	霊鷲寺	寺社	松崎有馬家の菩提寺。周囲を溝で囲む。稲次因幡の墓も。
6	北構口	石造物	市指定史跡。かつては周囲に門や番所小屋があった。
7	旧松崎旅籠油屋	建築物	市指定有形文化財。幕末に建築、2019年度復原完了。活動拠点。
8	本陣（御茶屋）跡	歴史	広大な敷地。詳細の確認は今後着手予定。
9	松崎天満稻荷神社	寺社	松崎有馬藩により整備。稻荷神社は筑後十社稻荷。
10	松崎城跡	歴史	有馬1万石の城館。南側に溜池等があり、雰囲気が残る。
11	鶴小屋	建築物	明治期の旅籠建築。NPOによる活動が盛ん。
12	南構口	石造物	市指定史跡。残存状況良好。石塁から西に土塁も一部残る。
13	下岩田天満神社	寺社	1912年に合祀。境内に西南戦争関連石碑あり。
14	一里塚跡	歴史	下岩田の一里塚跡。記念碑と説明版あり。
15	諏訪神社	寺社	1621年の有馬豊氏入部の際に勧請。高松家の灯籠あり。
16	高松家	歴史	古屋佐久左衛門、高松凌雲の生家。納屋は市内最古の建築か。
17	紺屋	建築物	古飯の町家。古写真・持ち送りあり。
18	御井・御原郡境石	石造物	1829年建立。御井郡・御原郡の境界に立つ。
19	平方天満神社	寺社	1597年北野天満宮から勧請。境内に大正時代の石馬・石牛像。
20	光行天満神社	寺社	1646年に鱈坂村から勧請。「菅公一千年祭記念碑」あり。
21	光行土居	道	中世頃の人工的な土塁。街道としても利用。
22	光行茶屋	歴史	往時は茶屋6～7軒、榎10数本と伝承あり。
23	一里塚跡	歴史	八丁島の一里塚跡。記念碑あり。
24	平田家住宅・平田氏庭園	建築物	建物は市指定。庭園は国登録。NPOによる活動盛ん。
25	日吉神社	寺社	1672年に現在地へ。鳥栖の2社とともに勧請。
26	実相寺	寺社	1653年に鳥栖田代西清寺より勧請。
27	田中宗易の墓	墓	17世紀中頃、小郡の町立てに貢献した人物。
28	祇園神社	寺社	1654年に現在地へ。小郡町の鬼門の守り。
29	柿の木瀬	風景	彦山道の宝満川の渡し。
30	隼鷹神社	寺社	神功皇后の伝承あり。早馬祭とクスノキ群は市指定。
31	北枅形	道	横隈宿。明治頃建立の追分石あり。元は北側に構口があった。
32	本陣（御茶屋）跡	歴史	横隈宿の「下のお茶屋」跡。現在は横隈公民館。
33	柳屋	建築物	横隈宿有数の古建築。1882年の記録あり。

No.	構成要素	種別	概要
34	南枡形	道	横隈宿の枡形。1909年建立の「長井先生記念碑」あり。
35	御勢大霊石神社	寺社	式内社。中世の大保発展の中心。伊能忠敬の測量日記に登場。
36	神社の一の鳥居	石造物	1715年建立。市内最古の鳥居。
37	媛社（七夕）神社	寺社	七夕伝承。江戸中期の織姫像あり。かつては広範囲から信仰。
38	横手橋跡	道	宝満川の渡し。旧橋脚が一部残る。
39	三国境石	石造物	筑前国・筑後国・肥前国の国境石。小郡市側は傍示石も残る。
40	稲次正誠碑	石造物	久留米藩家老。この地で亡くなった稲次因幡の記念碑。
41	樋口家	歴史	井上組大庄屋。土蔵等や古文書が多く残る。
42	高松家墓地	墓	大庄屋高松家の墓地。八郎兵衛は宝暦の一揆で処罰。
43	七曲がり半	道	何度も細かく屈曲した道。松崎へ続く。
44	旧稲吉橋	道	宝満川の中に橋脚跡が残る。
45	稲吉老松神社	寺社	七夕伝承。牽牛像あり。天神信仰資料が市指定に。



三国境石



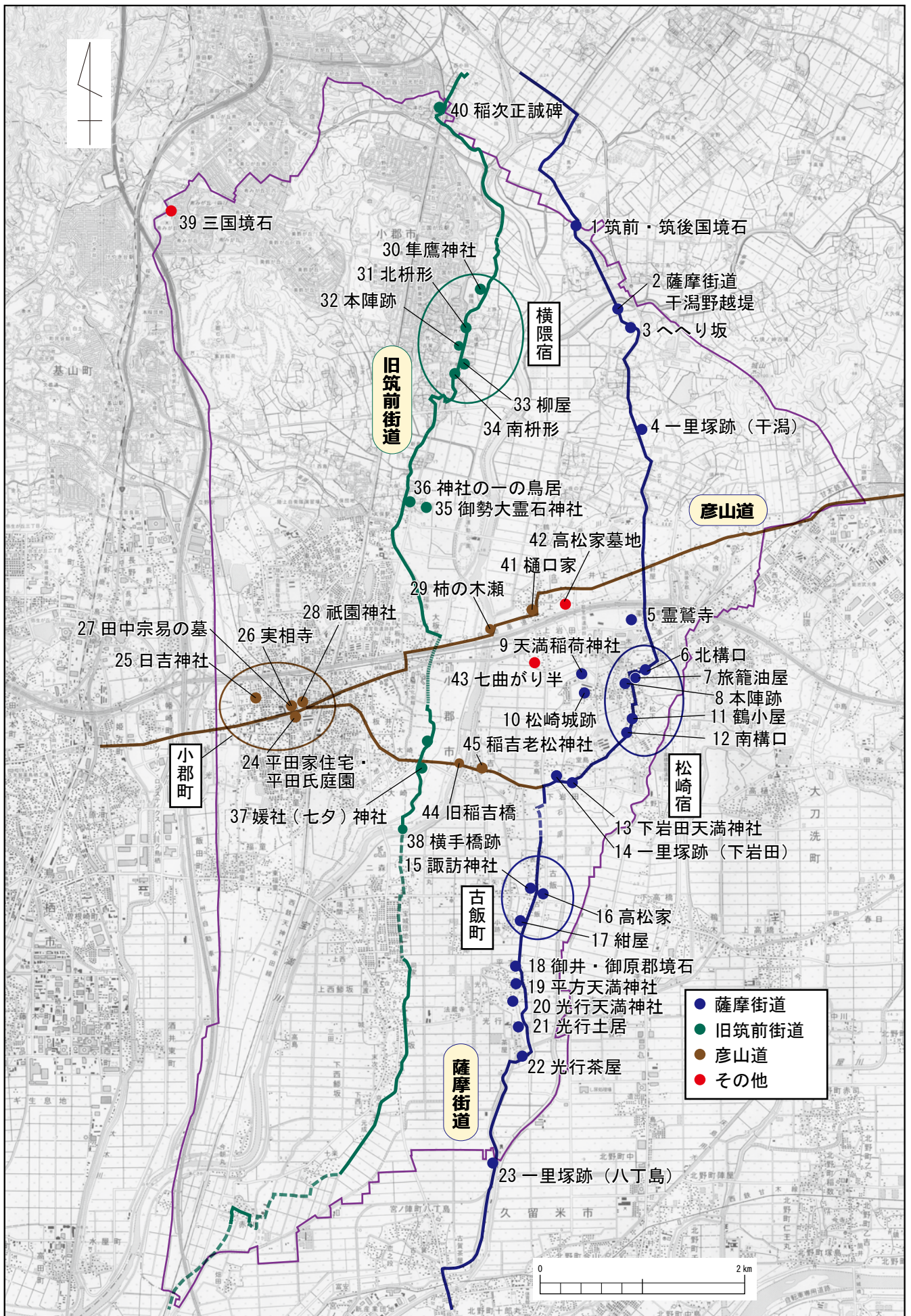
御井・御原郡境石



横隈宿 北枡形



霊鷲寺 稲次因幡の墓



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

1) ストーリー

近世小郡は燼とともに発展してきました。江戸時代、燼から作られる燼蠟は照明やびんつけ油として非常に重宝され、久留米藩は燼の栽培を奨励します。燼蠟は藩にとって貴重な特産品で、重要な財源になっていきました。

17世紀中頃に町立てされた小郡町は、耕作地も少なく、決して豊かな町ではありませんでした。しかし、18世紀に庄屋になった池内孫左衛門は土地が燼栽培に適していることを見抜き、燼木栽培を藩に申し出て認められます。これにより、次第に商業が盛んになりました。このような状況の中、享保15年（1730）小郡下町で生まれたのが内山伊吉です。彼は、孫左衛門らとともに「松山燼」をもとにした品種改良を進め、「伊吉燼」を作り上げました。この「伊吉燼」は、毎年燼の実が収穫できる収穫量が多い優良品種で、九州一円に苗木が出荷されるとともに、自ら蠟製造に着手する人も現れ、町は大きく発展しました。

江戸時代、端間は宝満川水運の要でした。幕末には藩の米倉である郷倉ができる程で、上流の村々は舟を使って端間に年貢米を届けました。なお、端間までは十石積みの上荷船が上ってくることができ、そこから久留米城内や瀬下町浜倉を經由して、大坂や長崎へ運ばれました。小郡の燼蠟も端間から出荷されたと考えられます。瀬下町の商家の出荷物控帳には、小郡町の蠟屋の名前が数多く登場します。

19世紀に入ると蠟の価格が下がり、各藩の燼栽培は低迷しますが、幕末になると藩政改革を進める諸藩が燼蠟の専売制を採用し、大坂に蠟が集まらなくなります。これにより蠟の価格は倍以上に上昇しました。ここで注目されたのが伊吉燼です。藩内外でこの優良品種の増産が行われ、小郡は燼実の生産地であるとともに、燼苗の一大生産地にもなりました。なお、薩摩藩は数年の間に在来の燼木を伊吉燼に切り替えたという記録があります。また、安政3年（1856）には、小郡から吉兵衛という燼植方仕手が長州藩に派遣されています。明治6年（1873）の戸口調査によれば、小郡町は174戸で人口850人、うち蠟屋は16軒、近郊では古飯に1軒、西福童に2軒あったことが分かっています。

小郡町は、燼蠟産業興隆の頃、「小郡銀」と呼ばれる程の富を蓄えました。そして、これを代表するのが平田家です。幕末から明治にかけての4代平田伍三郎高德は平田家の財産基礎を作り、明治12年（1879）に現在も残る平田家住宅（市指定有形文化財）の主屋を再建しました。明治14年（1881）には伍盟銀行を設立し、地域の発展に大きく貢献します。その後、昭和初期には新座敷や客殿が増築され、この頃には庭師松尾仙六による平田氏庭園（国登録記念物）も完成しました。当時、小郡町には松尾仙六によって多くの庭園が作られ、河原氏庭園など素晴らしい庭園が現在も残されています。市内から伊吉燼はほとんど姿を消してしまいましたが、この平田家の建物や庭園を見ると、当時の繁栄を想像できます。

近年、市民の間で小郡の発展を支えた燼を見直す機運が高まっています。NPO法人三沢遺跡の森を育む会は、小郡市市民提案型協働事業の「三沢遺跡内遊休地の整備・保全・再生及び森林環境教育活動」の中で、伊吉燼の苗木の生産と植樹を目指しています。他のNPOにも取り組みが見られ、いつかもう一度伊吉燼を身近に目にする日が来るかもしれません。

2) 構成文化財

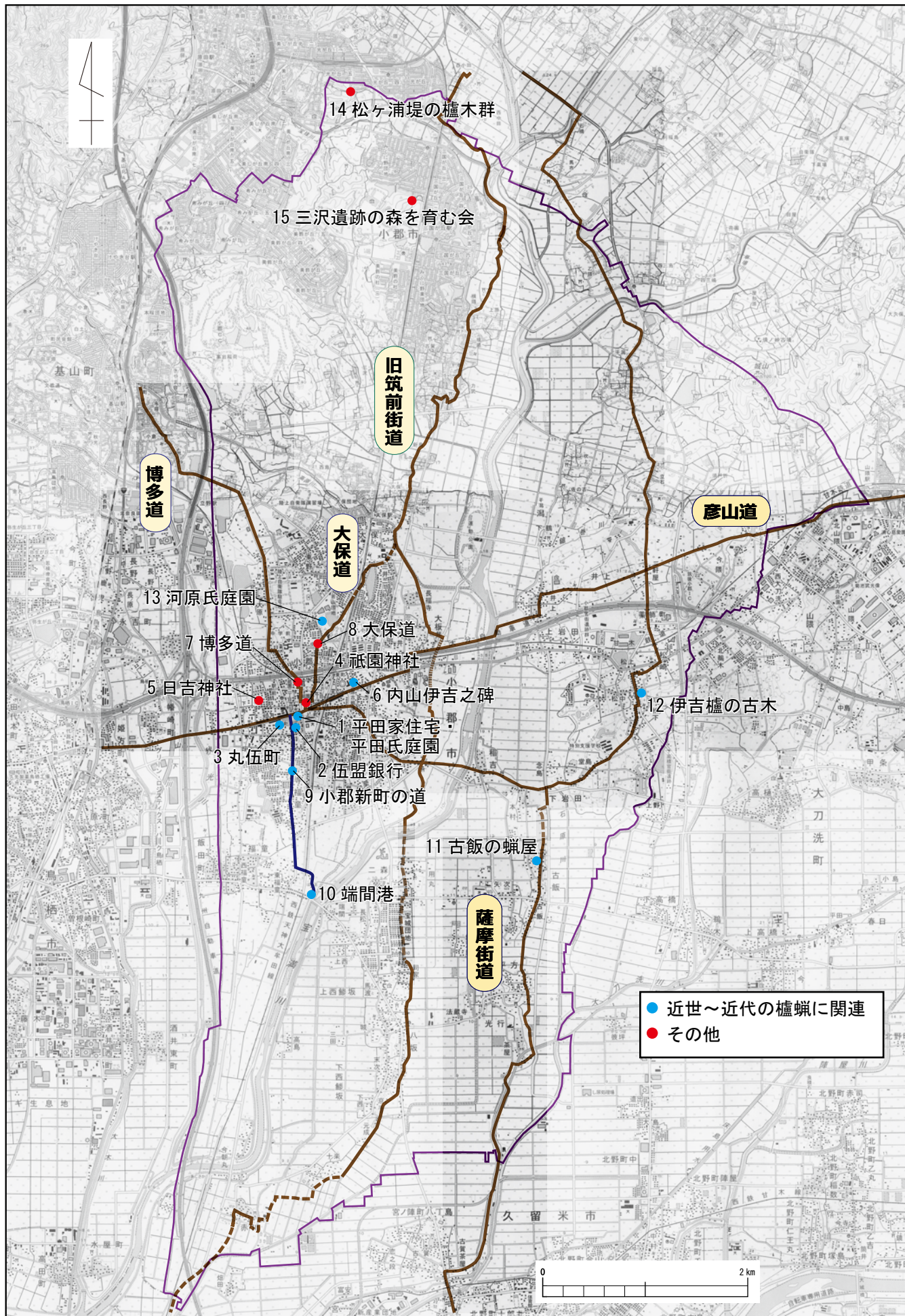
No.	構成要素	種別	概要
1	平田家住宅・平田氏庭園	歴史	幕末以降の豪商。主屋は1879年再建。庭園は国登録記念物。
2	伍盟銀行	歴史	1881年に平田家当主により設立。小郡の発展に寄与。
3	丸伍町	歴史	旧繁華街。「丸伍」は蠟屋の屋号で、小郡を象徴。
4	祇園神社	寺社	1353年創建。久留米祇園社より分霊勧請。
5	日吉神社	寺社	1336年創建。鳥栖重田・旗崎の日吉神社とともに勧請。
6	内山伊吉之碑	石造物	18世紀に伊吉櫨を開発。小郡発展の功労者。
7	博多道	道	小郡町から出て、基山で長崎街道に合流。
8	大保道	道	小郡町から出て、大保で旧筑前街道に合流。
9	小郡新町の道	道	小郡町から端間港へと続く重要な道。
10	端間港	歴史	宝満川の川港。ここから小郡の櫨が積み出された。
11	古飯の蠟屋	歴史	地元に「蠟屋」として伝わる。1873年の文書にも登場。
12	伊吉櫨の古木	樹木	現在に残された貴重な伊吉櫨の古木。
13	河原氏庭園	歴史	松尾仙六により作庭された素晴らしい庭園。
14	松ヶ浦堤の櫨木群	樹木	堤に面して数本確認。由来は不明。
15	三沢遺跡の森を育む会	その他	NPO法人。伊吉櫨の再生に取り組む。



内山伊吉之碑



伊吉櫨の古木



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

1) ストーリー

昭和40年代のニュータウン開発以前、小郡市三沢（旧御原郡三国村）の池沼・沢・湿田は、鴨の大群の飛来地でした。

江戸時代から明治初期まで、鴨・鶴・雁などは久留米藩主の専有で、郡奉行を通して許可を受けた者のみが狩猟を許され、一般の村人には捕獲が固く禁じられていました。鴨については、廃藩置県後によりやく地元の共同狩猟地が設定され、住民による狩猟が始まります。

安政4年（1857）の鴨上納文書「去辰年御用鴨并所々頼共ニ与方割賦差引帳」（黒岩家文書）では、久留米藩が通常の秋物成・春物成に加え、小物成として他の特産物と一緒に鴨も税の対象にしていたことが分かります。この「御用鴨」は、現物と代銀で藩に提出させていました。また、寛政元年（1789）の「久留米領御答書」には、久留米藩の名産・献上品として「蜜柑・九年母・海茸・塩鴨」を挙げています。

昭和40年代まで、三国丘陵の谷間や湿田では「無双網」による鴨猟が行われていました。この猟は、糶を干潟や湿田に撒いて鴨の群れを呼び寄せ、監視小屋から針金を引いて、幅約2m、長さ20m程の網を被せて捕獲するものです。なお、「無双網」など猟に関する道具も、現在は少なくなっています。

昭和4・5年頃に三小小学校がまとめた「カモの研究」によると、「食用に適する鴨は、何れも常に穀物や水草、または虫類などを主食としているのであって、海鴨類の如く常に介類や水棲昆虫類を主食とするのは肉の味が良くない。鴨は鶏に比して脂肪少なくしてあっさりした小鳥に近い味である。」とあります。明治44年（1911）には、陸軍大演習で久留米を訪れた明治天皇に三国村の鴨が提供され、大正5年（1916）の久留米大演習では大正天皇に、昭和6年（1931）の参謀演習では秩父宮に提供されました。

昭和10年（1935）の『三井郡読本』によると、主な猟場は「西島溜池・井浦溜池・三沢深田」で、「十月上旬から三月末頃迄、幾万とも知れぬ鴨が毎朝未明に有明海から筑後川に沿うて久留米、田代、小郡を経て、この溜池に下りる。」とあります。年間の捕獲量は、「大抵七八千羽、多い時は二万羽も獲れた年がある。」ようです。狩猟家の多くは商人と特約しており、捕獲した鴨は基本的に商人を介して販売されました。主な販路は、久留米・福岡・小倉・八幡などです。しかし、もちろん地元の人々にも販売されました。今から40年程前までは軒先に鴨が吊るしてあるのも日常の光景で、袋に入れて売り歩くこともあったようです。

戦後も鴨猟は盛んに行われ、「さとう別荘」や「とびうめ」、「水車屋」といった料亭で鴨料理が振舞われました。また、昭和31年（1956）から昭和42年（1967）に営業された三沢ピクニックセンターは鴨料理の名所で、昭和41年11月4日の西日本新聞記事に「テリ焼きとカモめしで一人前四百五十円。」とあります。近年は市内で鴨料理を提供するのは「さとう別荘」のみとなりましたが、現在も毎年溜池に飛来するたくさんの鴨が、当時のにぎわいを今に伝えています。

2) 構成文化財

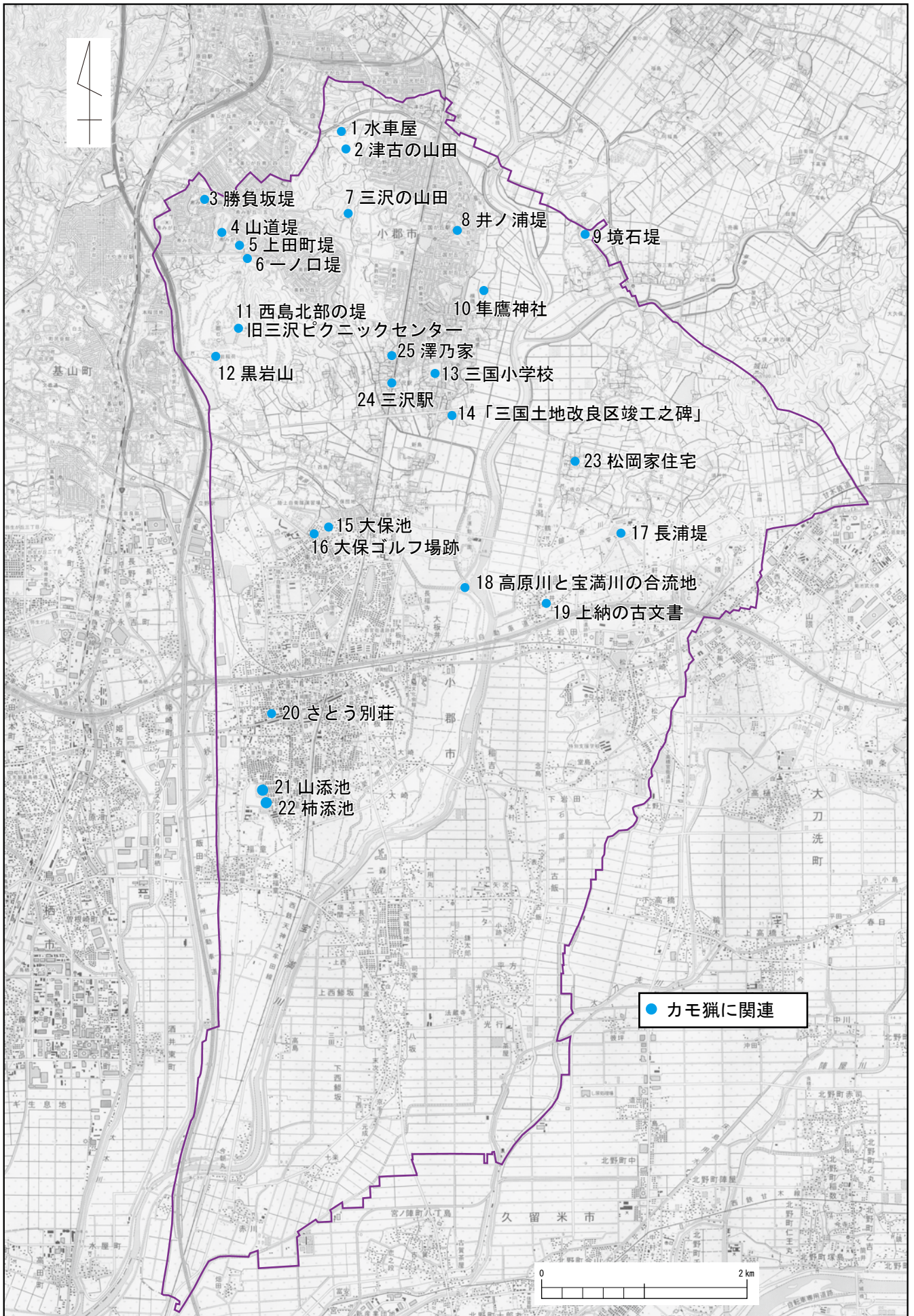
No.	構成要素	種別	概要
1	水車屋（くるまや）	歴史	昭和43年（1968）～平成19年まで営業していた鴨料理の料亭。
2	津古の山田	自然	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
3	勝負坂堤	水路等	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
4	山道堤	水路等	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
5	上田町堤	水路等	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
6	一ノ口堤	水路等	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
7	三沢の山田	自然	鴨の狩猟地（江戸時代～現在）。
8	井ノ浦堤	水路等	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
9	境石堤	自然	現在の鴨の飛来地。
10	隼鷹神社	寺社	境内で明治天皇に献上する鴨を飼育。
11	西島北部の堤 旧三沢ピクニックセンター	水路等 歴史	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。 昭和31年（1956）に開設。かつて鴨料理の名所。
12	黒岩山	自然	昭和6年11月24日、秩父宮殿下に鴨を昼食として提供。
13	三国小学校	その他	昭和6年11月23日、秩父宮殿下に鴨を昼食として提供。 昭和4年11月4日、中庭にて鴨の飼育を始める。
14	「三国土地改良区竣工之碑」	石造物	記念碑の背面に鴨猟に関する記述あり。
15	大保池	水路等	鴨の狩猟地（江戸時代～昭和初期？）。
16	大保ゴルフ場跡	歴史	県内最古のゴルフ場。鴨料理がクラブハウスの名物。
17	長浦堤	水路等	現在の鴨の飛来地。
18	高原川と宝満川の合流地	自然	現在の鴨の飛来地。
19	上納の古文書	歴史	黒岩家文書。江戸時代に鴨上納の記載あり。
20	さとう別荘	建築物	昭和30年創業の鴨料理の料亭。大正13年竣工の建物と庭園。
21	山添池	水路等	現在の鴨の飛来地
22	柿添池	水路等	現在の鴨の飛来地
23	松岡家住宅	建築物	国登録文化財の料亭「とびうめ」。かつて鴨料理を提供。
24	三沢駅	その他	昭和10年頃には駅周辺に「生鴨」の看板がたくさん出していた。
25	澤乃家	歴史	かつて鴨料理を提供した割烹。いつまで営業されたか不明。



昭和10年頃の井ノ浦堤



現在の井ノ浦堤



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)

1) ストーリー

市内には17か所の寺と41か所の神社があり、人々の心の拠り所となっています。一方、信仰には様々なかたちがあり、それを表す数多くのお堂や個人宅の石祠などもあります。これらを民間信仰と位置付け、その特徴をまとめます。

まず仏教に関しては、観音菩薩、地蔵菩薩、虚空蔵菩薩、薬師如来、大日如来、不動明王に対する信仰が多く見られます。その分布の特徴は、17世紀後半にできた薩摩街道沿いよりも、中世以降の地域の主要道であった旧筑前街道沿いや、井上から乙隈に続く宝満川の河岸段丘に沿った旧道沿いに多いことが挙げられます。

観音菩薩は、「観音講」が作られ、女性を中心に信仰されてきました。講とは、同一の信仰の下での寄り合いのことです。干潟阿蘇神社のお堂にある観音像の足元には元禄14年(1701)の銘があり、現存する市内最古の例となっています。吹上村囲の観音堂は、現在も周辺の女性たちによって、「おかんのんさん」として信仰が続いています。なお、名馬池月の墓と伝わる「池月の塚」の傍らには馬頭観音が祀られています。馬頭観音は牛馬の安全祈願として信仰され、市内の個人宅にも多く見られます。

地蔵菩薩は、路傍や村境などに祀られることが多く、子どもの仏とも言われます。松崎霊鷲寺入口にある願掛け地蔵が市内で一番大きな例です。市内には「いぼ取り地蔵」もいくつか見られ、花立日子神社をやや上った所には「いぼ神さま」と呼ばれる自然石があります。

薬師如来は、衆生の病苦を救うという現世利益の仏として広く信仰されてきました。大崎中嶋のお堂にある薬師如来は、享保の大飢饉の際に村の安全と無病息災を願い、霊鷲寺の薬師如来から分霊勧請したものと伝わります。二夕鎌太郎のお堂には4体の薬師如来像が祀られ、地域の篤い信仰を表しています。

大日如来は、平安時代以降流行する密教の最上の仏とされます。市内では自然石を大日如来として信仰している例も多く、今後の調査でさらに件数が増えることも考えられます。

不動明王は、疫病退散・災害除去の仏として、広く信仰されてきました。乙隈札所の高さ1.5mを測る巨大なもの、浮き彫りされたもの、線刻されたものなど、その姿は様々です。

神道に関しては、恵比須神、天神、猿田彦神、稲荷神(倉稲魂神)などに対する信仰が見られます。恵比須神は商家が多い松崎、古飯、小郡などに集中する傾向があり、天神は力武、西島(三沢)、大崎、八坂など、やや分布に偏りがあるようです。

恵比須神は、農業・漁業・商業の神として広く信仰されています。小郡町では、上町・中町・下町・新町それぞれに祀られ、松崎宿でも上町・中町・下町に見られます。なお、古飯の街道筋にある恵比須像は享和元年(1801)のもので、市内最古の例と考えられます。津古では現在も「恵比須講」があり、20軒程で運営されています。

天神信仰は、菅原道真を祀ったもので、市内では北野天満宮から勧請したものが多く見られます。天孫降臨の際に道先案内を務めた猿田彦神は、村落の入口や分かれ道に祀られているものを多く見ます。井上公民館前の猿田彦大神は高さ約230cmを測る堂々たる石碑で、文化10年(1813)の銘があります。なお、乙隈天満神社境内には猿田彦神と天細鈿女命の名前が並べて彫られた碑があります。天鈿女命は猿田彦神の妻とされ、両者を併せて祀ることで、安産などを祈ったものと考えら

れます。

市内には、四国八十八ヶ所霊場と西国三十三観音霊場の写し霊場が数多く存在しました。主なものとして、三井川北四国八十八ヶ所霊場、城山八十八ヶ所霊場、筑後三十三ヶ所霊場、九州三十三観音霊場などがあります。三井川北四国霊場巡りは「どろどろ参り」「お大師さん参り」と言われ、春秋の2回歩き遍路が行われていましたが、平成10年頃を最後に現在は見られなくなりました。

仏教・神道以外では、キリスト教の信仰が見られます。大刀洗町に今村天主堂（国指定重要文化財）があることから分かります。禁教の江戸時代にも市内には潜伏キリシタンとしてキリスト教を信仰していた人々がいました。明治初めの古文書には、松崎町や小板井村にキリシタンが存在していたことが書かれています。

2) 構成文化財

No.	構成要素	種別	概要
1	大崎東札所 十一面観音像	石像	江戸中期の『寛延記』に記載。水盤に「女講中」。
2	平方本成屋敷 子安観音像	石像	石祠に天保14年(1843)の銘。近年までヨドを行う。
3	名馬池月の塚 馬頭観音像	石像	名馬池月の塚に隣接する。仏師廣田自観の作。
4	上岩田磐戸御堂 如意輪観音像	石像	如意輪観音像が2体。三井川北四国霊場の一つ。
5	吹上村圀観音堂 観音像	木像	「お観音さま」と呼ばれ、女性による篤い信仰。
6	干潟阿蘇神社御堂 観音像	石像	堂の中に3体の観音像。元禄14年(1701)の銘。
7	霊鷲寺 いぼとり地蔵	石像	高さ162cmの地蔵菩薩像。楼門近くに祀られる
8	松崎 願掛け地蔵	石像	高さ2.2mの市内最大の地蔵。正徳元年(1711)の銘。
9	佐野古大神宮観音堂 地蔵菩薩像	木像	ヒノキの一木造り。中世に遡る可能性。
10	佐野古大神宮 六地蔵像	石像	年代は不明。福田美濃守種次との関係か。
11	上西馬渡薬師堂 薬師如来像	木像	室町時代に遡ると考えられる貴重な木像。
12	大崎中嶋薬師堂 薬師如来像	木像	享保18年(1733)に霊鷲寺の薬師如来を分霊勧請。
13	ニタ鎌太郎薬師堂 薬師如来像	木像	堂内に4体の薬師如来像。『寛延記』に記載。
14	力武坂本薬師堂 薬師如来像	木像	三井川北四国霊場の一つ。地域で病気回復を祈る場。
15	大保中小路 大日如来	石製	自然石に大日如来を表す梵字あり。
16	大板井屋敷大日如来堂 大日如来	石製	高さ40cm、幅80cmの自然石。かつては神田あり。
17	日吉神社 虚空蔵菩薩像	石像	1月13日と9月13日に「こくぞう祭」。
18	三沢松尾口御堂 虚空蔵菩薩像	石像	開発前の丘陵上から移設。石造の覆屋。
19	古飯表観音堂 不動明王像	木像	三井川北四国霊場の一つ。2体の不動明王像あり。
20	乙隈札所 不動明王像	石像	三井川北四国霊場の一つ。かつて庄屋の敷地内に。
21	日吉神社 下町恵比須像・中町恵比須像	石像	彦山道沿いから移設。中町は線刻。
22	高松家前 恵比須像	石像	享和元年(1801)の銘がある市内最古の恵比須像。
23	松崎上町 恵比須像	石像	文化3年(1806)の銘。浮彫で、2体の鯛を持つ。
24	立石公民館 恵比須像	石像	大正9年(1920)の銘。12月第1日曜日に祭礼。
25	上西高島 天神さん	石像	石祠に天保9年(1838)の銘。「高島の天神さん」

No.	構成要素	種別	概要
26	井上公民館前 猿田彦大神	石像	文化10年(1813)年の銘。旧彦山道沿いに建つ。
27	花立 猿田彦大神	石像	集落の入口に建つ。道祖神の意味も持つか。
28	乙隈天満神社 猿田彦命・天鈿女命	石像	2神を祀ることで、安産を祈ったか。
29	三沢南内畑 稲荷神三社	石製	3基の巨石。北側の石に「稲荷神三社」の銘。



井上公民館前 猿田彦大神



乙隈天満神社 猿田彦命・天鈿女命



松崎 願掛け地藏



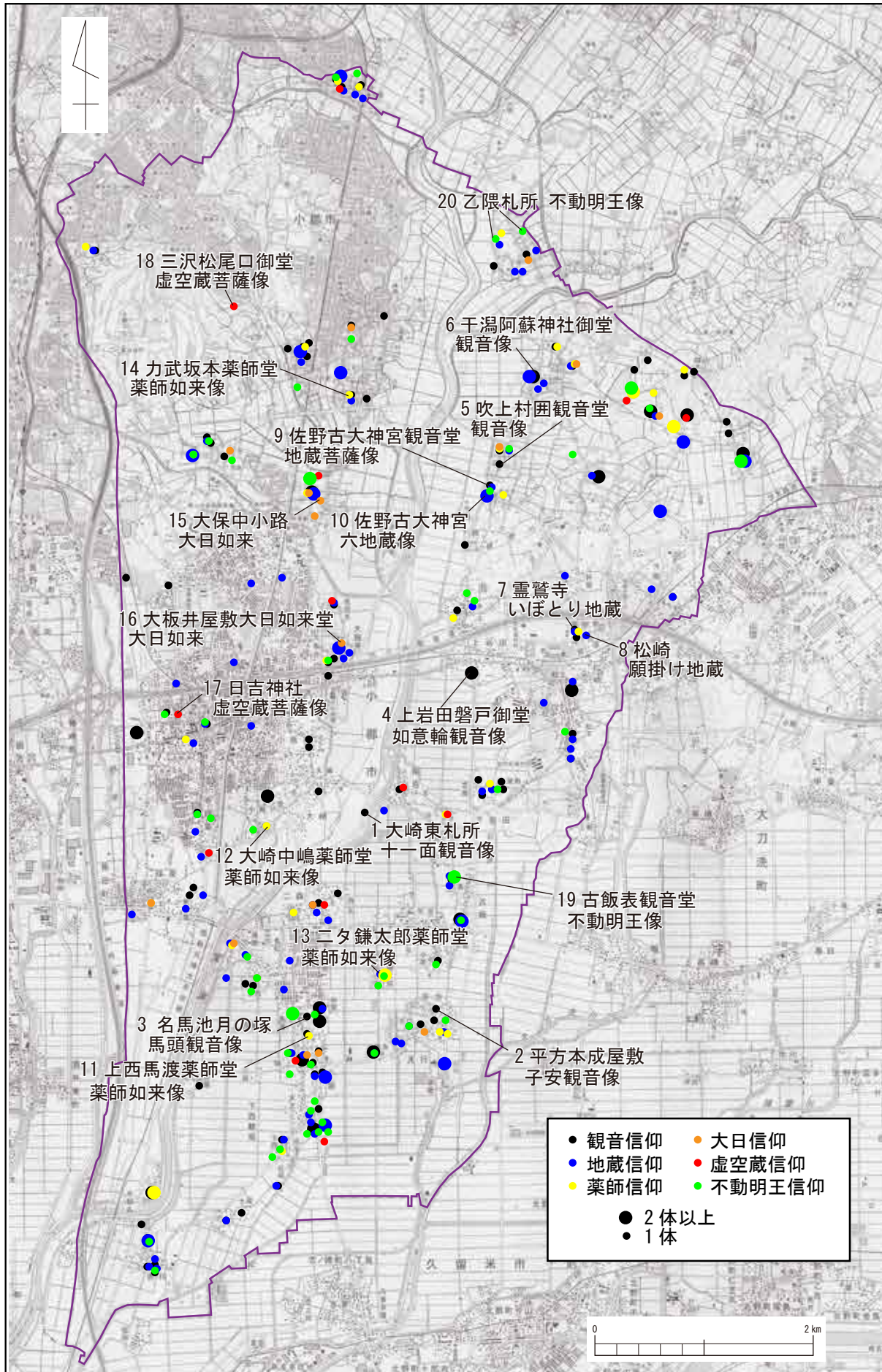
佐野古大神宮 六地藏像



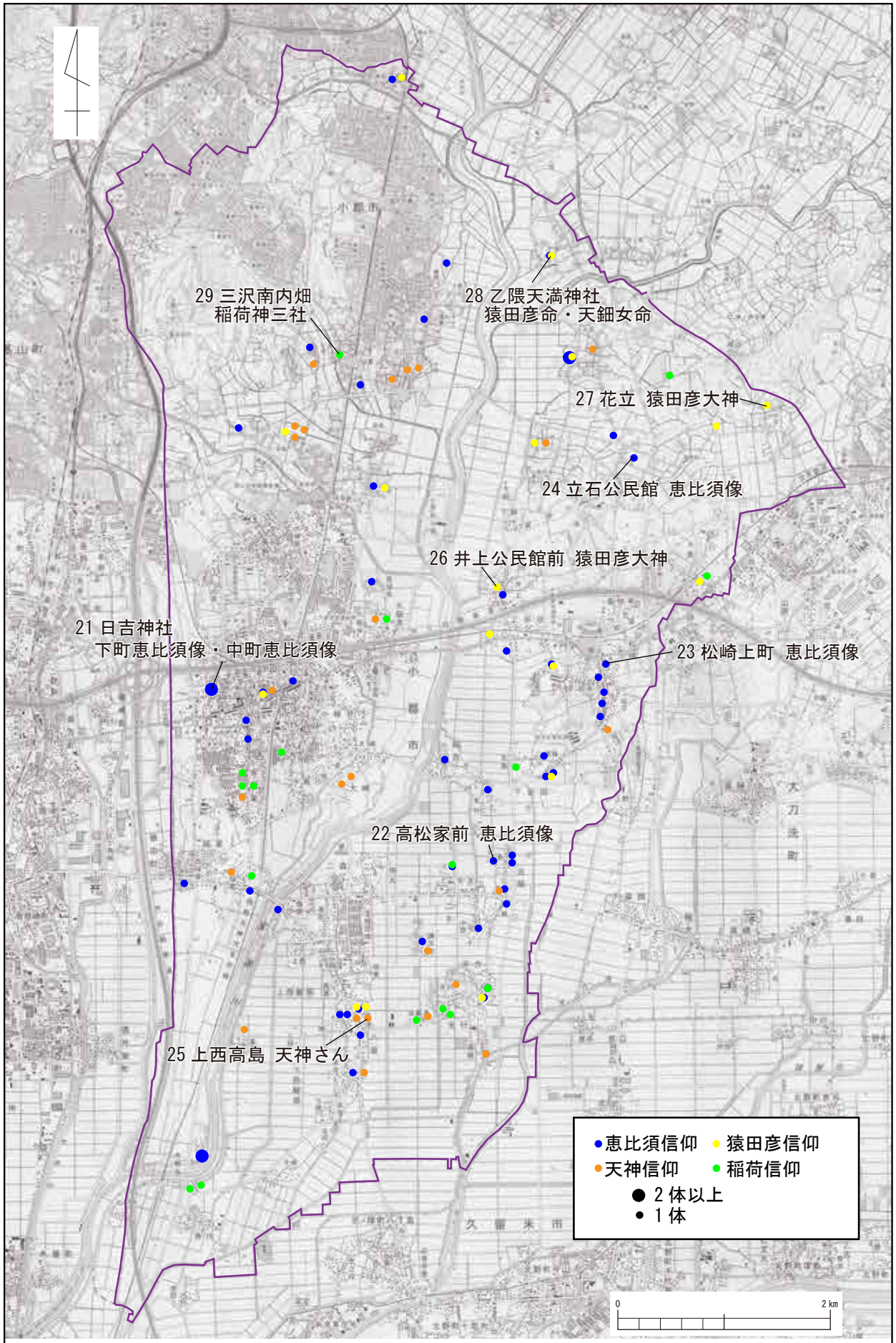
松崎上町 恵比須像



三沢松尾口御堂 虚空蔵菩薩像



3) 構成文化財の分布① (S=1/50,000)



3) 構成文化財の分布② (S=1/50,000)

1) ストーリー

第一次大戦で飛行機の重要性を認識した日本は、本格的に飛行機の開発や飛行場の整備に乗り出します。陸軍は、北部九州の拠点空港として山隈原に目を付け、大正5年（1916）に工事に着手しました。約3年間で46万坪が整備され、大正8年（1919）に大刀洗飛行場が完成します。大正14年（1925）には1,500人規模の日本最大の飛行連隊となりました。

当初は民間の利用や遊覧飛行等も行われた大刀洗飛行場ですが、日中戦争が始まった昭和12年（1937）以降、飛行場や航空隊に関する施設が次々に造られ、航空兵を養成する学校の色彩が強まります。その規模は東洋一と称えられ、小郡市内にも関連施設として陸軍実弾射撃訓練場や練兵場が造られました。

陸軍実弾射撃訓練場は、花立山の西麓に造られました。昭和18年（1943）に完成し、縦300mの規模で、左右は幅約25m、高さ約5mの土塁で囲まれています。この施設は現在でも残存状況が良く、的を掲げるための半地下通路やそこへ至るトンネルが残っています。なお、この射撃訓練場へは、軍用道路を通過して向かっていました。現在も幅8mの広い道路があり、民地との境界には「陸軍」と彫られた石標が残されています。

国鉄甘木線は、大刀洗飛行場への引き込み線として、昭和14年（1939）に開通しました。鹿児島本線基山駅と甘木駅を結ぶわずか14kmの路線ですが、この開通により一度に大量の人と物資を運搬することができるようになりました。当時の太刀洗駅と西太刀洗駅の一日当たりの乗降者数はそれぞれ1万人近くに上り、これは現在の西鉄小郡駅にも匹敵する数です。この鉄道は、現在は甘木鉄道として、周辺住民の交通の便を支えています。

昭和20年（1945）3月27日、第1回大刀洗空襲がありました。74機のB29が計1,000発以上の爆弾を投下しました。この日、三井郡立石村立立石国民学校は終業式でしたが、帰宅途中の三軒屋で児童3人が亡くなりました。三軒屋では他にも犠牲者があり、現在は「立石平和の碑」を立てて吊っています。

4日後の3月31日、104機のB29が再び大刀洗飛行場を襲いました。この2回の空襲で、飛行場はほぼ壊滅し、その機能を失いました。この第2回大刀洗空襲では、花立集落が大きな被害に遭いました。花立集落は軍人の疎開先となっており、さらに山麓には飛行機の掩体壕や三角兵舎などが造られていたからです。16軒の民家が焼失し、多くの犠牲者が出ました。なお、現在花立のお堂にある観音像と薬師像はこの時に被害を受けましたが、戦後に元に戻されました。毎年空襲のあった3月31日に法要が行われています。

戦争末期の空襲では、市内の様々な場所に被害が出ました。干潟の赤松病院は、医師が軍の嘱託医として活躍していましたが、第1回空襲で大きな被害を受けています。昭和20年7月28日には干潟の松岡酒造所（現在の「とびうめ」）にロケット弾が命中し、その痕跡は現在も建物の壁面に残されています。

戦争の記憶を今につなぐものに、旧立石国民学校の奉安殿があります。奉安殿とは、戦時中に「御真影（昭和天皇の写真）」と「教育勅語」が収められていた施設で、子どもたちは毎日登下校の際に最敬礼をする対象でした。戦後、GHQの指示によりほとんどが解体されましたが、旧立石国民学校の奉安殿は現在の位置に移され、立石村役場の金庫として利用されました。なお、基壇は現在も

立石小学校の敷地内に残されています。

戦時中の小郡の人々の生活を表すものに「横隈区有文書」があります。文書は総数約 700 点からなり、内容には隼鷹神社の神座の記録、治水・堤防の諸記録等がありますが、その中に昭和 19・20 年の戦時関連史料が含まれています。史料の内容は通達とそれに関する印刷物で、当時の村の常会の内容も分かります。昭和 19 年（1944）10 月の村常会では、「兵器の生産に全力を注ぐこと」「食糧の増産や飼料の確保につとめること」「軍人援護を強化すること」等の決定事項があり、末端まで国による統制が徹底されていたことが分かる史料です。

2) 構成文化財

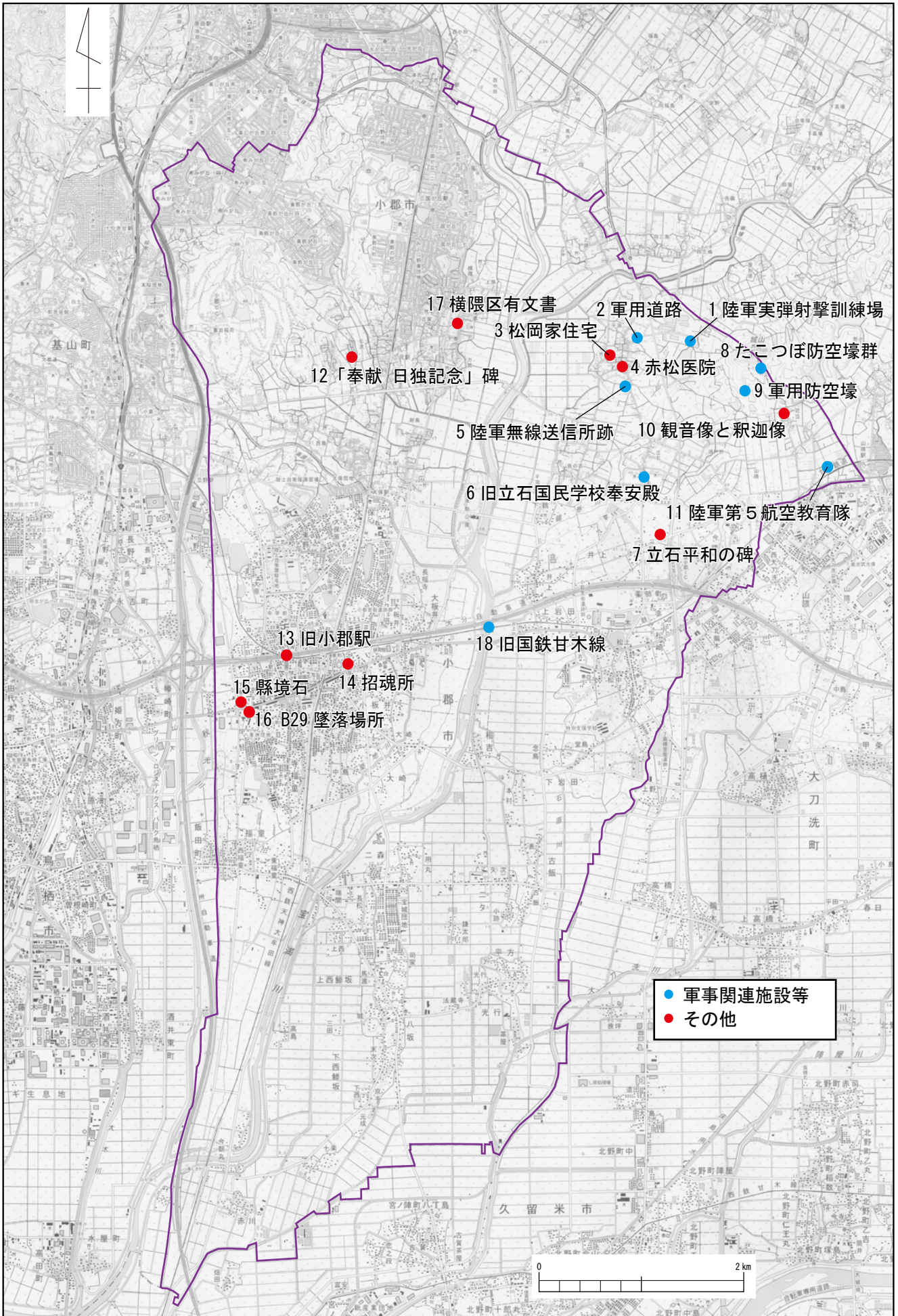
No.	構成要素	種別	概要
1	陸軍実弾射撃訓練場	歴史	旧陸軍の施設。1943 年完成。縦 300 m、両側に幅 25 m の土塁。
2	軍用道路	道	幅 8 m の道路。境界標「陸軍」が現地に数本残る。
3	松岡家住宅	建築物	国登録文化財の料亭「とびうめ」。建物壁面に爆撃の痕跡あり。
4	赤松医院	その他	嘱託医として活躍。病院も爆撃被害。
5	陸軍無線送信所跡	歴史	1944 年設置。杉を無線塔として利用。
6	旧立石国民学校奉安殿	歴史	本体は立石村役場金庫として再利用。基壇は学校敷地内に残る。
7	立石平和の碑	歴史	大刀洗空襲で亡くなった 7 人の犠牲者を弔う平和の碑。
8	たこつぼ防空壕群	歴史	軍人が多数疎開していた花立集落裏山を中心に多数残る。
9	軍用防空壕	歴史	花立山中にある大型防空壕。3 基確認できる。
10	観音像と釈迦像	石造物	第 2 回大刀洗空襲で被害。毎年 3 月 31 日に慰霊祭開催。
11	陸軍第 5 航空教育隊	歴史	1939 年開隊。現地に遺構等は残らない。
12	「奉献 日独記念」碑	石造物	日吉神社にある記念碑。砲弾を載せる。
13	旧小郡駅	建築物	1939 年に開設。ホーム等が現存。
14	招魂所	歴史	東町公園内。海軍中将濱田平の墓がある。
15	縣境石	石造物	1935 年頃建立。「飛行隊」の文字がある。
16	B29 墜落場所	歴史	1944 年 4 月 18 日に墜落。乗務員 11 名が犠牲。
17	横隈区有文書	歴史	戦時中の生活が分かる貴重な文書類。
18	旧国鉄甘木線	その他	1939 年開通。大刀洗飛行場への引き込み線。現在の甘木鉄道。



立石国民学校奉安殿



立石平和の碑



3) 構成文化財の分布 (S=1/50,000)